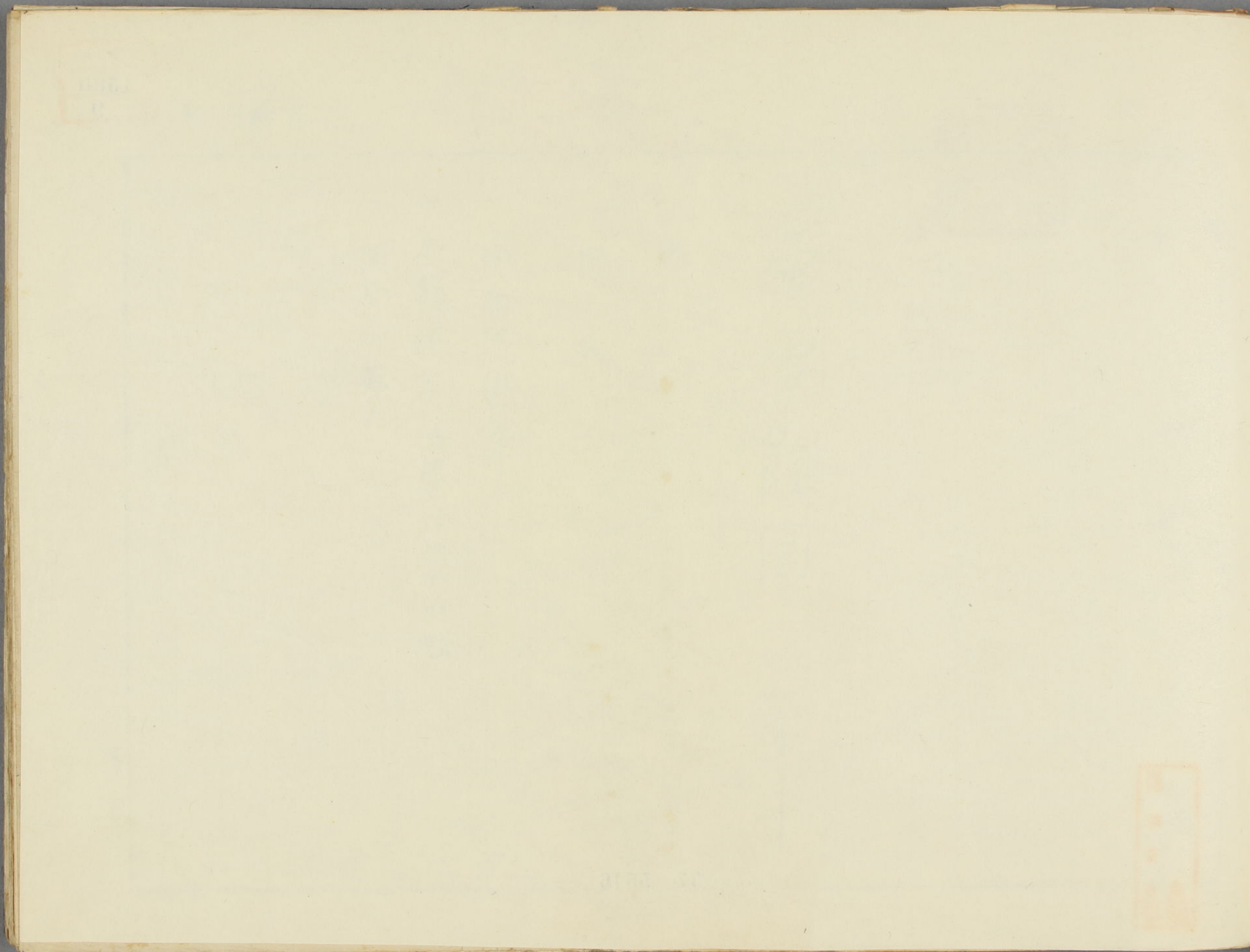


楚雪餘聞第一。

15
1560
9





15
1560
9

昭
和
年
月
日
氏
贈

37 5546

12月
8日

No. _____

No. _____



古
故
中
扉

雪
餘
圃

第十

目次
△
卅

中
任
非
表

- 一 南独漫遊草
- 一 弗勒德力、維廉四世、小話
- 一 廿日、夢

富士樓印才力モトヤ印行

(12 x 25)



本文
九
お

右
上
端

遊電餘聞 第十 八 4 4

獨 南 漫 遊 草 一 三 九

人ノ行旅ヲ企フン永ク時日ヲ期ニ指テ厚ク其
日ニ待テ其愉快ノ意外ニ少キヲアリ又
偏然ニ出テ其愉快ノ豫想外ニ多キヲアリ
余ノ此行ノ如クハ元ヨリ期スル所ナキニ作サ
レ此此ノ如ク早急ニ出テ此ノ如ク長旅ヲナ
ストハ苟ニモ想ハサリシ
是ヲ以テ其愉快ナ
ルヲ少ナカラス
此記ヲ等スルニ及ンテモ猶
行旅中ノ快ヲ忘ル能ハサントナリ

七月廿三日午後五時ノ頃ナリケレ
机ニ凭テ
テ讀ム偶々訪フ人アリ
即チ海川翁一氏
氏懐ヨリ一通ノ手報ヲ出シ
余ニ示シ
其父海川翁ニ即チ今宵八時外に当地ニ着セ
ントノ報也
余伯林ニ在リ同氏ノ此行アリ
聞ク此此早急ノ行アリトハ免ラサリ
乃チ翁一氏ト共ニ余ノ寓ニ晩餐ニ
車場ニ行キテ待ツ
パストント一マス
亦未待ツ
須臾ニ洗身兼リ公使交際官試神
姉小路公蘇氏ト共ニ着ス
公使道ヲアツテ

銀座 伊東屋製

3

ナクニ取リ同地帯在ノ池田某侍医謙ヲ夢ヘテ
 来ルニ乃千直ニ馬車ヲ以テ「おん、口ヤン」ニ
 至リ談話ス少時ニ「トーマス君」
 氏余ニ向テ曰ク此地好酒樓「パンパト」
 アリ「氏」同行ヲ欲ス乃千十時半オテ
 ルヲ出テ酒樓「カイセムハル」ニ登リ飲場ヲ
 候テ十二時之ヲ出テ氏ト相合レテ家ニ帰ル
 廿四日午前六時公使ヲ「おん」ニ訪フ「ハ」
 不トムト「トーマス」及ヒ「ジョー」
 使此日「フ」ソ「リン」ライ「ン」氏ヲ訪ハント
 又「同」氏ハ「オ」ノ日本ニ在リ且ク「ジョー」一氏及ヒ余
 ノ此地ニ来ルヤ「オ」ノ住所就學ノ「ト」ニ付テ
 去セ「レ」ノ也乃千公使姉妹「ジョー」ノ氏ト「マ」
 ス「氏」ノ及ヒ余ト共ニ「ライ」ノ家ニ至ル
 話ノ末午後近村名蹟「ウ」ヘテ「ジョー」ノスニ内行
 セ「レ」ノ約セ「ル」ニ「ライ」ノ氏ハ又其夜公使等
 ヲ「氏」ノ家ニ招引シ「ジョー」ノト台ヲ公
 使等之ヲ謀ス「レ」ノ帰路「ト」マ「ス」ノ家ニ至リ少
 時ニ「オ」ノ子「オ」ノ街ヲ散歩シ「ジョー」ノ陳列場ヲ一見ス
 公使種重「ノ」トニ「オ」ノ故ニ「オ」ノ業ノ類ニ

別

銀座 伊東屋製

別行

子由子、古成^地ヲ見ん^ル、其沿革人殊ニ記スル
 二毛呈ラス^ル、來因地方^{多ク}ヤ、龍ノ材種トナリ
 奇蹟怪説少ナカラス^ル、之ヲ見終テヨイン氏云
 何人カ徒歩^ル山ヲ下ラント欲スルヤト
 姉小路氏池田氏^事一氏ヲ、嬢及ヒ余皆歩セ
 ント云^ク、唯公使トト^マス、或ハ鐵路ヲ以テ下
 山ス^ル、下テキ^ニニクス、ウ^キンターニ至リ
 相會ス^ル、下山ノ途次、右ニ一大厦屋ヲ見ん^ル、蓋
 レキ^ニルンノ一市人蘇西運河ニ力ヲ盡^スレ、吾ニ
 巨万ノ富ヲ致^スレ、此家ヲ造^レケト云^ク、是ヲ再
 ヒ舟ニ乗^リ下リ、ボンニ帰ん^ル、余ハヨイン氏ト
 共ニ直ニ氏ノ家ニ至リ、公使等ノ至ルヲ待^ツ、
 八時皆至ん^ル、早上會スル者ヲイン氏夫妻ニ嬢
 公使姉小路ト^マス、池田孫一等ノ諸氏外ニ
 イン氏ノ知人太尉某氏女子某氏等ノ十二名^ト
 閑話聊刻、半^ニ命^シテ家ニ帰ん^ル、
 廿五日午前七時、余^ハ猫蓐ニ在リ、姉小路來訪
 ス、余^ハ其奥ニ驚^ク、早朝ノ来意ヲ問^フ、答
 テ曰ク、公使等今朝^ハハイデ^ンハ、心セニ命^シハ
 ントス、子同行セ^ルヤト、余^ハ答^テ曰ク、余ハ八

銀座 伊東屋製

月上有同大野ノ五月半期祭ニ赴キント欲ス
 今行テ跡地ニ止ル猶早キニ過ルカ如ク
 之ヲ辞セシト氏曰ク公使ニ一ダ・ワンド記
 念碑ヲ見ントス行カスヤ余曰フ然ラハ同
 行スヘシト氏乃チ去ル余直ニ家ヲ出テ公
 使ニ出テルニ會ス元日リ一日往返ノ路程チ
 レハ一行者ヲ携ヘス九時三十分ボツ罷ノ
 引車ヲ以テ公使姉小路跡一ノ五氏ト共ニ登セ
 ントス姉小路氏切符ヲ購ヒ来リテ此引
 車ニ一ダ・ワンドニ止マラスト云フ故ニ子ノ
 爲ニハイデンベルヒ行ノ切符ヲ購ヘリト余
 少シク驚キニカ此實態ノ旅行ニ亦後日ノ話柄
 トナルハニト思ヒ然ラハ同所ニ赴クヘシト也
 ニ云氏ト引車ニ上ル車券ス途コブレソツ
 ビンゲンマインツマンハイムヲ經テ午後
 三時半ハイデンベルヒニ着スアテンド
 二一ロツポニ泊ス姉小路氏等子コニ道
 尋セシヲ以テ知人多ク爲ニ之ヲ訪ハントホ
 テルヲ出ワ匹田新平来訪ス同氏訪尋ニ
 馬車ヲ以テ古殿址ニ至ル古殿址ハ平
 銀座 伊東屋製

月上有同大野ノ五月半期祭ニ赴キント欲ス
 今行テ跡地ニ止ル猶早キニ過ルカ如ク
 之ヲ辞セシト氏曰ク公使ニ一ダ・ワンド記
 念碑ヲ見ントス行カスヤ余曰フ然ラハ同
 行スヘシト氏乃チ去ル余直ニ家ヲ出テ公
 使ニ出テルニ會ス元日リ一日往返ノ路程チ
 レハ一行者ヲ携ヘス九時三十分ボツ罷ノ
 引車ヲ以テ公使姉小路跡一ノ五氏ト共ニ登セ
 ントス姉小路氏切符ヲ購ヒ来リテ此引
 車ニ一ダ・ワンドニ止マラスト云フ故ニ子ノ
 爲ニハイデンベルヒ行ノ切符ヲ購ヘリト余
 少シク驚キニカ此實態ノ旅行ニ亦後日ノ話柄
 トナルハニト思ヒ然ラハ同所ニ赴クヘシト也
 ニ云氏ト引車ニ上ル車券ス途コブレソツ
 ビンゲンマインツマンハイムヲ經テ午後
 三時半ハイデンベルヒニ着スアテンド
 二一ロツポニ泊ス姉小路氏等子コニ道
 尋セシヲ以テ知人多ク爲ニ之ヲ訪ハントホ
 テルヲ出ワ匹田新平来訪ス同氏訪尋ニ
 馬車ヲ以テ古殿址ニ至ル古殿址ハ平

別
 行
 廿六日午前九時 公使等一行馬車ヲ馳テウチ
 ルフス。○フンニ子ニ至ル。又後景の地
 全市水道ノ本原ト云フ他アリ約十ノ香魚
 ヲ蒸フ。旗亭ニ就キ香魚ヲ燻カシメ嘗テ推多
 セシ日本醬油ヲ加ヘテ之ヲ食フ。味頗ル妙也。

二ノ名ニ尾ヲ含ム。旗亭ノ小婦之ヲ驚ク又一
 笑話ト云ヘシ。直ニ東車ノ常ニ常ル。川村讓
 三郎 司馬省法 津島士 事訪ス。公使等ニテテ子
 ニンハン迄同リセヌヤト。或レモ余一ノ行季
 フ夢ハス洋服ヲ替ケル。己能ハス者ニ未ダ
 セス。姉小路氏云。子何ニニニニニニニニ
 之ヲ贈ハサル。余是ニ於テ意ヲ決レニニニニ
 ンニ行カントス。アリ十ニ時五分ハイテ
 ヲル。ヒ登ノ列ヲ坂ヲ走ツカールスル。エニ
 向フ。二時十分同所ニ達ス。公使等ヲ送乙

銀座 伊東屋製

此の頁は、右の頁の続きである。手書きの文字が非常に淡く、ほとんど読み取れない。

別

又西樓之上レカ 余曰クコトト 相傳ヘ
 一 西樓ニ至ル 此樓ノ始仕スル 昔時婦人ヲ
 用ク 蓋シ北地ノ婦人ノ始仕スル 象ノハ
 必ス其書信タシヲ知ル 南地也 在テハ之
 ヲ常トス 我輩也 独ニ在リレ 昔ノ月ヲ以テス
 レハ大ニ奇異ヲ覺フ 初事常ニ帰ル
 廿七日 昔年 前ノ時 禱ヲ奉テ 朝會ヲ終リ 先少 施
 寺村物 見ル 各子 畫少 婦ノ 雛形ヲ 集メレ
 一、如シ 我日 本ノ 物高 頗ル 多シ 陰器 漆
 器ノ 鐵土 偏玩 也 緣 帶ヲ 箱 履ノ 柿 物工 有馬ノ
 竹物工ニ至ル迄 約十ヲ以テ 約ウヘシ 蓋シ 扱ニ
 車馬大業ノ 教授タル 70 12 7 7 ソルハ べル
 女ノ 贈亭セシモ ノ 女ト 其配 妙 當ヲ 得ス 一箇
 約十金ノ 價アル 陶器 器ノ 合セテ 僅ニ 數
 錢ニ 滿ルサシ 玩 具ト 相混 也 其 因分ヲ 立テス 實
 ニ 我國人ノ 目ヲ 以テスレハ 遺蹟ニ 堪ヘル 也
 吹ニ 美術品 陳列場ヲ 見ル 陳列場ハ 7 中ニ あり
 ニク スル 巴ウ ト 稱スル 一 大 厦 也 ノ 中ニ あり
 此 厦 屋ハ 古 代 希臘ノ 建築ニ 擬セシモ ノニ 也
 大目ヲ 塔カスニ 定ム 陳列場ニ 八 立ト 國中

銀座 伊東屋製

別

此地留學ノ日本人如孫照馨ノ弘恩之氏 宗佐新純氏
 天形通義等出迎フ 道ニ馬車ヲ以テ 心工リ
 出テルニ 義ニ曉誓ヲ喫ス 之ヲ終テ
 加藤等ノ誘導ニ由リ 姉小松孫一ノ西氏トマ
 キニミリヤン、カッフエーニ登リ 酌シ 夜半當
 ニ帰ル
 之ニハ 聯邦中ハ 工ルン 五國ノ都府ニ
 律獅子王ノ名ヲ博セシハイニリヒ五ノ十二

別

此地信止ヨリ 論スレハ 獨リ 全聯邦中ニ 多ク得
 口ハ 十一万有餘 邑ニ 近代ニ 設置セラレシ 市街
 獨 聯邦中ハ 尤モテ 心工ヒ 五國ノ都府ニ 人
 今 スツトカントノ 地位ヲ 略述セシニ 此地ハ
 異ノ 別事ヲ 以テ 之ニ 向フ 此地 殆ど
 一アリ 之ヲ 出テ、 常ニ 歸リ 今言レ 一時世分
 子 艱難ニ 其巧思ハ 不足ヲ 止メシ 今ニ 是ルモ
 ノ 美術品ヲ 集メタリ 銅器 鐵器 陶器 象牙 琥珀
 等ノ 別事ヲ 以テ 之ニ 向フ 此地 殆ど

銀座 伊東屋製

世紀ニ関テ市街ニ其後吾代ノ詩且美術ニ
 心ヲ傾ケ去月崩セルト少⁶ト⁶五ニ世ノ代
 ニ巨万ノ負債ヲ生セルモ皆美術ニ之ヲ費セル
 ニ²ニル²比ノ如クナレハ建築ト⁶美ナラサル
 ナク廣大ナラサルナク實ニ独乙全州美術ノ例
 源ト云ヘク又麥酒釀造ニ依リテ世界中²
 ニ²ハン麦酒ノ到ラサレ²知近來独乙
 以²トルト²稱²穀味スルモ²即チ是²故ニ唯
 ニ²独乙全州²ニ²ナラス²之ヲ全世界中麥酒ノ例
 源ト云テ可²停車場敷²ノ白色²州車ヲ見ル
 是皆此地²ノ²麦酒輸出ニ用²ル²毛²ト云²
 盛²ナリト云ヘレ²人口ハ²廿²三²万²ニ²其地位
 ハイサル河ノ辺ニアリ²其地又²アル²乃²山²
 連ナレハ其高山峻嶺ノ爲ニ冬²候ノ²雪²迄²延²ル
 甚²ニ
 廿²八²日²加²藤²志²佐²天²形²三²氏²原²田²直²ニ²即²
 嘉²藤²太²郎²堀²米²素²詩²共²ニ²新²繪²画²館²ニ²至²リ²之²ヲ²見²
 ン²無²常²動²万²ノ²繪²画²上²ハ²羅²馬²時²代²ニ²下²子²近
 セ²ニ²至²ル²迄²大²家²名²流²ノ²画²ヲ²集²メ²ニ²モ²ノ²ナ²レ²ハ
 一²ト²昨²凡²ナ²ラ²サ²ル²ナ²ク²實²ニ²一²朝²一²夕²ニ²之²ヲ

銀座 伊東屋製

能く看~~る~~す所ニ非サル~~也~~之ヲ去テ、ヤキレ
 たりキヤン、~~ヲ~~ラツツナル旗亭~~シ~~ライヒニ
 上リ午食ス~~是~~ニ於テカ薩等ノ諸氏トテ一氏
 ハ他ニ赴キ公使婦小路余ノ名ハ猶ホシヤ~~也~~
 伯石有ノ繪画~~也~~ヲ見ル~~之~~ヲ前ノ繪画~~也~~ニ比
 スレハ九中ノ一毛ニモ足ラサレ~~也~~一箇人ノ和
 有ト~~見~~レハ能ク蒐集セシ旨トキヘレ~~也~~次ニ
 フロヒレアル門ヲ過ク~~其~~大サ巴里ノ凱旋~~也~~
 伯林ノ「アロンテンアル」~~也~~ハ及ハサル
 モ古御布國アテインノ「アクロポリス」ニ擬
 シタルモノニ~~一~~方ノ柱ハ「トリアレン」ヲ象リ
 又一方ハ「イヲニアン」ヲ摸シ皆其故實ニ由
 テナリレモノナレハ大ニ巴里伯林ノ二大~~也~~
 リモ其大ニ見ルヘキヲ是~~フ~~ニ大~~門~~皆故實ニ
 由リシナルヘシト~~也~~此~~門~~ニ及ハサル遠キカ如
 シ~~之~~ヲ入レハ右ニミ~~ニ~~ンハン~~ニ~~美術家ノ作
 ヲ蒐集セシ~~一~~館アリ~~其~~建築ハコリント~~ト~~ヲ
 取ル~~陳~~列品ハ彫刻陶器等ヲ最トス~~多~~ク
 ハ皆常居~~也~~之~~ニ~~對~~シ~~又~~一~~館~~アリ~~之~~ヲ~~彫刻
 館トス~~建築~~ハ「イオニアン」ヲ取ル~~也~~主ト

銀座 伊東屋製

被
14

古代ノ彫刻品ヲ陳列シ其古キハ埃及トロヤ希
 臘羅馬ノ如キ實ニ皆希代珍寶ニ多クハル
 ドウ中ヒ王一屯ノ太子タリシ時ニ萬葉サレシ
 モノト云フ此ノ如キハ唯輕々ニ看過スレ
 ハ大層云ニ土偶ヲ陳列セシニ屆キサレニ
 有餘年前ニモ能ク此美術ニ長セシヲ思ヒ又今
 人ノ嗜好ト異ナル點ヲ摘示シ之ヲ意味スレハ
 又能ク後末美術ノ嗜好ハ如何ニ成行クカヲ伺
 ヒ得ヘク又其嗜好ノ進歩セシヤ否ヲモ知リ得
 ハク鑑視スルニ隨テ去ニ堪ヘサズニ
 アリ之ヲ去テ常ニ歸リ晩餐後婦山路氏ト事
 ヲ馳テケルテナル、
 場ニ至ル薄劇ハ夏季中閉テ唯此一アルノ
 ミ其技其術殊ニ記スルニ足ラス、
 出テ歩々常ニ歸路一恒様ニ登ル、
 ハス一杯ヲ飲ケテ恒ニ出テ行ク、
 聞ク之ヲ一恒様ニ出テ行ク、
 下婢皆有一ノ服紗縹ノ布ヲ纏フ、
 二草花ヲ画ク、
 頗る異様也、
 其ニ當地近傍某

銀座 伊東屋製

姉小路ノ二氏ハサルツルヒニ向ク景一旅
 テ余ト訪一氏ハ公使姉小路氏ニ今ク訪一氏
 ハ午後直ニハイテハ向ハント欲ス
 余ハ同所祭典ニ猶三日ノ猶アレハ一度ホ
 ニ帰リ更ニ同所ニ向ハント欲ス岩佐加孫
 ノ二氏二人ノ為ニ車便其他ヲ斡旋ス好便ヲ
 得スニ氏余ニテ曰ク子何ソ祭典ノ日迄當
 地ニ止マラサシヤ余曰ク余元々此長旅
 ヲ為スノ意ナカリシカ實ニ偶ホコニ及ヒ
 ナレハ一回ハホニ帰ルヲ便トス然レモ好便

ナクニハ他ニ為スヘキ道ナレト岩佐曰ク
 明日之ヲ尋ハルツルヒニ赴クヘシ同所又
 ニ三ノ日本人アリ然レ其地ニリニルンハ
 ルヒノ如キヲ一見シ此ノ如クニ三日ヲ費サ
 ハ大勢異ノ日ニハイテハ心ニ赴クニ好都
 会ナラスヤト余曰ク然ラハ此説ニ臨ハン
 ト一決ス一氏モ亦之ヲ共ニセントハ是ニ於テ
 一決ス森氏更ニ云ク今日午後スタルンハ
 ルヒ湖ヲ見ル如ク何ト衆之ヲ可トス乃チ
 遊ニイニグリシカソフニ登リ午後食

銀座 伊東屋製

別行

侯

佐ノ諸氏ト談話ニ時餘ヲ費ヤシ之ヲ由テ、イ
 ングリシ、カツフ、エーニ至リ共ニ午食ニ終テ
 岩佐氏ノ寓ニ至リ又笑話ス、又岩佐氏ノ諸等
 ニ至リ一菓店ニ登リ骨牌象戯ノ戯ヲ為シ榮車
 ノ時ヲ待チ一割烹店ニ晩食ニ入時榮ノ列車ヲ
 以テウソツフルヒニ向フ、送リ来ル者加藤岩
 佐森原田天形等ノ諸氏ナリ、此一休、世三、分同
 所ニ産ス、血ニ馬車ヲ僦ヒ、おテル、ニカシ
 和泊ス、同様旅客多ク虚堂ナリ、漸ク五層樓
 ノ一室ヲ得タリ、余等急ニ歸ルサレ、此夜已ニ
 際ケレハ止ヲ得ス、之ニ泊ス
 ウソツフルヒハマイン、此ノ辺ニ位ニ歴史上最
 ヲ法興スヘキ市街、此等テ七百四十一、年僧正
 フ、ルカルツス、此六者神聖ト尊稱セラルレ日
 ヲリ下テ千八百〇三年ノ近世ニ至ル迄ハ工
 ン、此ト合シ其間八十二人ノ法統連綿ト、寺領
 フ管轄シ其勢益ス甚シク千百〇五年ノ比ニハフ
 ヲシコニヤ、公ノ榮名ヲ蒙ルニ至レリ、蓋
 ン僧侶ニ公侯ノ名アルハ稀聞、此前ノ僧官ニ
 官内跡、攝乳内跡ノ稱アリシカ如キ、後千八

銀座 伊東屋製

別

百五十年佛國拿破崙大帝勢益熾ニ七月十三日
 可以テ獨國ト來因同盟ヲ組成セン1ヲ約シテ
 六人ノ獨ニ諸國ヲ結合シバエレン及ヒウルト
 ンハムヒノ西國五ヲ其元首ト定メ其同盟會ト
 伊國ノ間ニ更ニ同盟ヲ約シ又獨國ヨリ其同盟
 會ヲカツ7トセク而テ千八百十三年其同盟ノ
 破レシク迄ウルクアルヒハ常ニ其都府ヲリレ
 又千八百六十一年ニ及ヒ此地ニ城砦ヲ設ク
 ル1外ナリ今ハ唯ハエレン五國ノ一ヲ稱タル
 ニ過チサラン又此地ニ大學校九百人ノ學生ヲ

リ中ニ就テ醫學生ヲ多シトス
 八月一日午前十時當地在留ノ中出第一可ヲ
 訪フ在ラス待ツ7ヤ時歸リ来ル乃チ筆紙
 ヲ借リテハイデルハニナル斯波淳吉郎ニ書
 面ヲ贈リ同地到着ノ片帶留ノ家ヲ斡旋セ21
 7依頼ス何トナレハ各旅費ノ如クハ學費ノ
 為ニ皆人ノ負ムル所トナリ得ル所ハサラン1
 7思ハハナリ中島氏護導ニテ村任
 橋平春監医監ヲ訪フ橋平ハ我旧知人
 二五宮ヲ見ル蓋シ千七百年代ノ建築ニ佛

銀座 伊東屋製

原文
二 陶法
(陶法)

風ハエルサイニ正宮ニ見ルモノナリト云フ
 常ニ僧正ノ宮殿ナリニ云今ハ正宮ニ居ル也
 大寺ハエルン國王等ノ書進アレンハ之ニ寄セ
 ラルト云フ 建築裝飾等既ニミニハンノ建
 築ヲ見ニ後ノ目ヲ以テスレハ驚クニ堪ヘス
 庭園アリ甚ク美シク之ヲ出テテ街ヲ散歩ス
 有ニ故シイホルト氏ノ碑ヲ見ル氏ハ此地ニ
 在レ永ク日本ニ在テ日本語ニ通レ日本ヲ
 人ニ知ラシメシ氏関テカアリ 其子ニ人亦
 日本ノ一カヲ以テスハ己ニ人ノ知ル所ナリ
 此碑ヲ見テ大ニ追慕ノ念ヲ起ルハサナリ
 次ニ一酒樓ニ飲ム 松村氏余ニ向テ云フ 余
 説アリ之ヲ述ヘン 余ハ生物學ヲ專修トシ天
 然ノ理學ヲ究ム者也 爲ニ日本ニ在テハ理學
 上ノ點ニテ論ニ進化説論ハ法ヲ基キトシ佛學
 教家ノ言ノ如クハ實ニ愚也 ト一言ニ擧下シタ
 リ 然レニ今此地ニ来リ熟ク察スルニ上ハ學
 者紳士ヨリ下ハ奴婢ノ類ニ至ル迄日曜日ニハ
 寺ヲ休マズ寺院ニ赴ク之ヲ見テ考フルニ
 人心ヲ攬スルニハ宗教ナラサル可ラザルヲ

銀座 伊東屋製

知り其學者社会ノ人無而自ニ手授ニ行テ^礼
 スルヲ見テ大ニ上流ノ人此ノ如クナラザル可
 三サルヲ知ん^レ物國ノ宗教ハ宗教タルノ性質
 ヲ備ヘス之ヲ以テ人心ヲ收攬スルノハ難シ
 佛法ハ稍ヤ宗教ノ体裁アリ是或ハ能クセン
 カ^レ然レ^レ此今ハ宗教ニ當ルノ地位ニ在リ日
 本ノ國民ハ宗教シウ可キモ上流社会ノ人ヲ導
 ク能ハス^レ者ニ佛徒ハ常ニ學者ノ操行スル所
 然レ^レ此上ノ好ム下下之ニ習フハ天下ノ通
 鑑也^レ上流ノ人之ヲ信セサル者ニ下流ノ者モ

大ニ佛ヲ信スルノ度ヲ減セリ^レ佛法ノ衰頹ハ
 蓋シ上流社会ノ人ノ罪^也然レ^レ此今佛徒ヲ見
 ルニ耶蘇教ノ能ク人心ヲ收攬スルニ比セハ松
 松レリ^レ到テ佛ヲ以テ國民ヲ誘導スルノ能ハ
 サルハ^レ余ノ首ト^ス望ム所ハ耶蘇教ヲ日本
 ニ整ナラシムルニアリ^レ然レ^レ此上流ノ人は
 毛信セサレハ又第一ノ佛法ヲ我國ニ見ルニ至
 ラン^レ故ニ聲々テ上流ノ人ニ之ヲ信セシムル
 ヲ要ス^レ之ヲ至斯ノ言ト云者アレ^レ此一法アリ
 大學ニ^テ神學ヲ加ヘ西教ノ真義ヲ大學ニ教ヘ^ル

銀座 伊東屋製

伏レ下レル
□
入レル
)

強クイテ耶蘇ノ名ヲ以テ布教スルハ及テ及節ヲ
 スルニ至リ佛教モ而月ヲ改ムルニ至ラン今
 ヲレ烈クハ自製ニ上流社會の人モ宗教ヲ信
 教ノ要キヲ掲示スルヲ得曾告ノヲ説クニ至
 佛僧ヲ西教ノ佳クヲ院ヲシメハ佛僧是ニ佛
 毎甲ノ論ヲ君ノ説ノ如ク其學ヲ大學ニ加ヘ
 日々日々自々自々禮拜堂ヲ建ルカ如クオヤ景レ
 保年彼ノ人其過半ヲ占ムルハ何トナレハ猶天
 ヲ損スル程ノナレ今日我國ニ西教ノ傳播
 ヲ促サントスルハ甚々難シ

又
 外而西教徒トナラハ橋本名ハ之ニ満足セラ
 ハキモ余ハ此ノ如ク外而ノ之ノ變化ヲ好マサ
 ン今日ノ日本人西教ヲ棄ル者甚々多シ
 之ヲ強イテセハ大略乱ヲ惹起スヤ也セリ
 余一言ニ壓制ヲ以テ宗教ヲ支配スルノ不可
 ヲ云フ揚松村氏ニ云フ余寧ル佛道ハ哲學
 上ニ高揚ナルモ宗教上ヨリ見レハ幼稚ト
 余深ク其蘊奥ヲ知ラサレモ宗教ノ論理アルヤ
 也セリ而シテ其施シ教ノ點ニ對シテアハ景瑣
 事也根柢深クハ少シク其枝葉ヲ刈ルモ之

銀座 伊東屋製

誤リ者ト後ニ地圖ヲ覽ス大ニ改
 ニシ更ニニハニヒニ向フハ實ニ其便路
 末ニ之ヲ順路トス然ルニハ
 ニヨリニハニヒニ向フハ實ニ其便路
 所ノ見ハハニヒニ向フハ實ニ其便路
 結フ次ニ長松篤斐編修ヲ訪フ余等此日ニ
 論スルハアヲントスト宗教論是ニ於テ向テ
 フ此更ニ何余猶説アリ熟考ノ上他日之ヲ
 變ノ早ク功ヲ奏センヲ欲スル者ト奈日
 改革スルモ可唯歐人カ日本ノ人ヲ輕蔑スル
 毛異宗者ト云念充満スレハ余等ハ其
 右スルヲ能ハサレハトニ氏猶云フ佛ヲ
 遠慮ニ過ルカ如シトモ信仰ノハ早急ニ在
 余ハ之ヲ妨ケントスル者ニハ非ス余ノ説
 教ヲカニ及ハニハ西教ニ傳播セ
 教ニ巧ナシトヤ之ヲ能ノ改革セハ何ソ西
 可トス次レヤ佛僧トテモ眞宗僧ノ如キハ布
 ヲス知ラズ宗教ノ高尚ナルニ進マシムルヲ
 フルノ恐レアリ佛教ヲ改革ノ國人ヲ知
 5

銀座 伊東屋製

譽ヲ博セリ 此時農高務有官吏及ニ裁許ノ商
 人之ニ居留セシテ以テ市人能ク余等ヲ一見シ
 テ日本入ナルヲ知リ常モ他ノ市人ノ如ク文
 那人或ハ土耳其地言ノ者ト相混スルヲナレ
 救^ル 當時^ル 辨出^ル 名^声 高カリシヲ思フヘシ
 此地亦舊史上ノ着目ヲ要スル地ナレバ其沿革
 頗ル錯雜^ス ヲ以テ是ニ載セス
 二日^ノ 午前^ニ 寓^テ 出^テ 先^ク 城ヲ見^ン 城内一ノ
 少婦アリテ導^ク 其沿革ヲ説ク頗ル明瞭能ク
 英語ニ通ス 余曰ク 可憐ノ少女其才愛スヘ
 永ク此古城ト共ニ朽シメンハ惜ムヘシト
 一氏笑テ曰ク 真ニ然リト 古城ハ千廿四
 年ノ建築ニコシラツト帝二世ノ代ニナリテ
 リードリヒ、バルバロッサ帝之ヲ攘^ク 後チ市
 人ニクマツクス王ニ獻レ其王ノ命ニヨリゴ
 子シ 風ニ修築セシモノト云フ 次ニ沿革
 博多^ノ 鐘ニ至^ル 各國^ノ 船^ヲ 蒐集セシモノニ
 前日^ノ スツトカントニ見シモノト大同十一年
 ンノミ 余^ハ ホンヲ出^ル ヤ 一行^ヲ ナクミ
 ハンニ至^リ 新^ク 下^ニ 衣^ヲ 購^フ ント欲セシカ衣^ヲ 脱^ク

別

行

銀座 伊東屋製

其尺度ヲ取ラシムルニモ大ニ市人ニ勸ムル計
 リノ汗服ニナリタレバ寧ロ山市街ニ行クノ後
 ニセト決ス蓋シ山市街ノ人ハ衣服ノ美觀
 ニ心ヲ止ルヲサナレハ心ヲ此ニ新下社
 ヲ購ヒ之ヲ着ス大ニ快ヲ覺ク
 午食シテハ博物館ヲ見ントス
 之ヲ求ムレバ知ハス路上ノ人ニ問フ其
 人オフ之ヲ素レモ導セント之ニ從ヒ行ク
 道ニ然余ニ問テ曰ク貴客英語ヲ能クスル
 カ余答テ曰ク然リト彼英語ヲ以テ彼カ伯
 林ニ在テ支那公使館ニアリテ杯種々ノヲ語
 ル孫一氏籍カニ告テ曰ク彼ノ殊ニ英語ヲ
 以テ話スルハ自ラ英語ヲ能クスルノヲ誇ラシ
 爲テムヘントモ其風俗大ニ怪ムヘシト余
 曰ク余亦大ニ之ヲ怪レムト行クノ時
 彼再ヒ獨ニ語ヲ以テ博物館ヲ示ス余等之ヲ
 謝ス鏡ヲ持ヘントムニ笑テ辞ス余之ヲ
 強ニレモ受ケス去ル余等ニ於テ孫一氏ニ
 誤テ曰ク彼ハ唯一箇ノ奇人ニ過ヤサント
 博物館ニ入ル未ダ戻カス待ツノ少時乃チ戻

銀座 伊東屋製

ク第一幕之ノ堂ハ石器時代ノ物品ヲ陳列ス
 即チ人鉄ノ用ヲ知ルヲ示スノ時ニ石ヲ以テ鑄
 ヲ作りカヲ作りシ時代也 其中ニ曲玉白石ノ
 類ヲ見ル等邦國神代ノ物品ニ異ナラス 其
 ヲ示ス 此古代物品ノ東西洋一致スル一
 以テモ人間ハ一種ヨリ去シテハ明瞭也 國
 者流ノ諸冊ニ軍ヲ祖トシ西洋宗僻者ノア
 イバヲ祖トシ其他至ル如國ノ怪談ナル者ナ
 ハナシト 其社ノ諸冊ニ軍トスルモ亦ア
 4、イバトスルモ其種ノ一ヨリ去テシニハ違
 ナルヘシ 其他各種ノ美術品工業品機械類
 史上ノ器物等枚挙ニ遑アラスト 各博
 其趣ヲ同フスレハ之ニ贅セス 然レ他日
 アラハ汝ス再ヒ之ヲ訪ハント欲スル 博
 館ヲ出テ直ニ停車場ニ至リ四時十分ノ列車ヲ
 以テ七時三十九分ナルヲカルヒニ達ス 柘
 橋本長松申寫ノ由氏等由迎フ 直ニ柘
 ナクニナルニ投ス 柘村中孝橋本ノ三氏ハ後
 ニ余等ヲ訪ハンヲ約ス 獨リ長松氏ハ
 止テ余等ト別ル 長松氏其知人某等二人ヲ
 余

銀座 伊東屋製

別行

等ニ紹介ス< 二人等共ニ酌ム< 其一人ハ是
 ツギル< 乃チ四人團栞栞氏等ヲ待テ来ラ
 ス長松氏等ヲ< 寧ハ他ニ赴イテ再ヒ酌ンカ< 余
 曰ク< 又四人相携ヘテ「ウチナリ、カク
 エー」ニ登リ相酌テ夜半ニ至ル< 余云明日の
 時此地ヲ拜セント長松氏之ヲ止ムト頻リ< 〇
 其知人モ亦頻リニ之ヲ止メ午時ノ列車ヲ以テ
 拜セン「フツ」勸ム< 辞スル能ハス之ニ決テ< 往
 亦明日余等ヲ其家ニ招ント云フ< 余其好意ヲ
 謝ス<

三日午時長松氏来訪ス< 乃チ共ニ御前庭ノ人
 ヲ訪フ< 其人好更各種ノ品ヲ蒐集ス< 皆珍奇
 トスルニ是ラス< 庭園ニニ三ノ廊ヲ蓋フ<
 其人云フ「ワルツ」ハヒ特産ノ酒アリ之ヲ薦メ
 ント円形ノ壺子ヲ携ヘ来リ又相集テ飲ム< 時
 ニ午時辞々歸リ一時停車場ニ至ク< 中島
 氏長松氏等送リ来ル< 栞氏橋本ニ氏更アリテ
 来ル能ハス中島氏帰朝ノ期已ニ近キニ在リ余
 等モ帰朝ノ後再會セント相約ス< 一時五十四
 分列車同所ヲ拜メハイサルヤルニ此

銀座 伊東屋製

別

止ルノミ ✓ 大寺ハ其名ヲルベルト、カロウ
 ト云ヒ一千人ノ学全ヲ保チ千五百八十六年ニ
 横峯 ①ル ②ポレヒト一世ノ完設スル所 ③今
 年ニ至ル迄五百年ノ久シキ多少ノ沿革ヲ要テ
 此處大ナルニ望レリ ✓ 且下独ニ國中屈指ノ大
 学 ④ ⑤ 今日ニ至テハ市人大学ノ為ニ全括ヲ得
 ル位ナレハ市人ノ大学ヲ尊敬スルノ其ニテ満
 市此學典ノ為ニハ擧テカヲ ⑥ ⑦ 如キヲ見
 又旧時学全タリシ者ハ皆招待セラレテ之ニア
 リ中ニハ白髮ノ老人アリ ⑧ 此輩ト ⑨ 又旧時学全
 タリシ中ノ衣帽ヲ着 ⑩ 市中ヲ徘徊スル状ハ少
 年書生ニ異ナラス ⑪ 之ヲ見テ旧年人ノ一学校
 ヲ卒業スレハ老成人ヲ擬 ⑫ 書生ヲ横作スルカ
 如キ弊ヲ思ヒ以テ東洋人老衰ノ早キ一端ヲ見
 ルヘシ ⑬ 此地雜記スヘキト多ケレト ⑭ 余ハ ⑮ 他日
 此地大寺ニ赴キ心算ナレハ之ヲ其日ニ譲ラ
 ニト欲スル ⑯
⑰ 四日 ⑱ 川村氏方 ⑲ 本々午迄の時大寺校ヨリ
 教授学全等列ヲ出 ⑳ 寺院ニ行ケトテ ㉑ 之ヲ
 見 ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

銀座 伊東屋製

前之至ん 群集ヲ今テ之ヲ見ル 校ノ前而ニ
 今ノ額アリ共ニ美人ヲ画ク 一ハハイデルベ
 ルヒ市街ヲ婦人ニ擬セニ又ハ為大子ノ
 校名ニルルル夕力ニラ 同ク婦人ニ擬
 也ニモトニテトニテ須使ニ引テ正ノ様ヲ出
 ンヲ見ル 教授皆正服ヲ着ニ其状悦ニ僂僂ノ
 如シ 学生ニ解組合ノ者ハ其組合ノ帽ヲ勤
 其他ハ少服ヲ着ニ又祭典ニ限リ也 三ニ着
 客也中礼服ヲ着テ引ニ加ハル 其後寺内ニ
 村アリ 宗等学校ニ関係テテ者之ニ入テテ得
 不直ニ第ニ帰ラントス 道ニ引一氏ト依存
 氏ニ會ス 二氏ハ当地滞在ノ文印簿書記官漢底
 新氏ヲ訪ハントス 宗等ニ其之ヲ共ニセント
 其第ニ至ル 漢底氏此日ノ村ニ聘セテテ
 第ニ在ラズ 内氏内行ノ中 宗太氏 士理アリ
 之ト面談ニ辞之ヲ出テ引一氏ノ第ニ至ル
 路上ニビンゲノ留學ノ少倉某ニ會フ 午時
 辭メ川村氏ト共ニ第ニ帰ル 飯路川村氏 宗一
 同テ曰ク 閣下北村祐亮ヲ知ラんカ 宗一
 然リ 氏云ク 祐亮ハ生カ着ヌノ姓ニ 宗一
 宗一 宗一 宗一 宗一 宗一 宗一 宗一 宗一 宗一 宗一

銀座 伊東屋製

如^キ人^ノ慶^ニハ^シ御^上リ^ト御^下ル^セリ^ト也^ナ余^ハ云^フ然^ル子^ハ京^師ノ^人カ^レ氏^云フ^然リ^生カ^レハ^京師^在勤^ノ兵^力ナ^リ生^ルハ^幼ニ^シ田^邊院^宅ノ^家中^ニ養^ハレ^ル年^十六^東京^ニ出^テ司^法省^法学^校ニ^在テ^ハ年^ノ業^ヲ卒^ヘ年^ニ法^律博^士ノ^名稱^ヲ蒙^リ今^年按^權セ^ルテ^ハ此^地ニ^送ル^ルト^ナレ^リト^ス第^ニ歸^リ午^食ノ^時ニ^當リ^即チ^主人^夫妻^ニ而^ス午後^斯彼^氏等^ヲ訪^テ話^ス又^二前^日ト^キ棋^ヲ圍^ム後^初平^野村^新田^佐田^邊川^村新^田邊^田邊^川等^ノ諸^氏ト^ハ一^ハハ^ルラ^イン^ニ登^リ小^酌シ

或^ハ障^球戲^ヲ爲^ス斯^時前^日品^ヲ三^氏ハ^先ツ^歸ル^余等^四人^午夕^ノフ^ツケ^ル、^ワク^ルヲ^共ニ^ト約^シ共^ニ出^テレ^一ア^樓ニ^登ル^フツ^ケル[、]ワ^クル^ハ常^典ノ^毎ニ^當校^當生^ノ行^フモ^ノニ^社同^教育^ノ生^各ノ^松明^ヲ携^ヘ引^テ正^ニテ^ハ市^中ヲ^練行^クモ^ノ時^已ニ^十時^計ヲ^レト^ス遠^ク音^樂ヲ^吹ク^松野^氏カ^テ之^ヲ見^ル樂^隊前^ニ在^テ樂^ヲ奏^ス之^ヲ見^ル者^騎馬^或ハ^乘車^ヲ行^ク之^ニ續^ク漸^々名^聲ヲ^得ル^者騎^馬或^ハ乘^車ヲ^行ク^之ニ^續ク

銀座 伊東屋製

~~洲~~

改訂
の
後

別行

予の初めノ學舎手ニ松原ヲ據ヘ其聲揚々ト
 行ク知人ノ門前ヲ過リ或ハ知人ニ過ヘハ大
 聲ヲ發シ松原ノ松吹ヲ振ル何レモ醉テ泥ノ如
 キ歎ハ油煙ノ器ニ醜黒トナリ大声叱咤シ行ク
 有様ハ常ニ狂スルカ如シ之ヲ終リ川村氏ト
 共ニ寓ニ帰ル此日路ニ獨ビ子望太子并ニ
 ハリテノ國公ヲ見ル國公崇典ノ為ニ獨ニ帝
 ヲ仰ス帝死テ来ルヲ欲セズ曾テ子之ニ代リ
 奉レリト云ク
 五日午前斯原氏第ニ至ル斯原氏ヲ入
 余前田氏ト碁執ス川村氏一ノ學舎ヲ築テ堂
 ニ入来ル紅帽短衣ノ大學生ナリ皆負籠テレ
 ヲ知ラズ緋袴白籠ヲ以テテテ余ハ一日
 本人今日我邦人ヲ見ルヲ笑ニ喜ニ堪ヘスト
 皆思テ是レ醉學生ノ惡戯ナラント未タ一人
 識ラザル者ナシ又テ余ハ其聲揚々ニ全レ
 女ノ名ハ西村ノ末外云ク印ニ鴨州ニ来リ
 全ク日本語ヲ忘レ獅記ナルモハ一ニ三四ノ
 數字ト一ノ俚語ヲ以テトテ何カモ
 れしや物ハのつりきト呼フ衆思ハス噴飯

銀座 伊東屋製

不^レ是^レ於^レ始^レ々^レ其^レ顔^レ色^レ見^レ人^レ頭^レ髪^レ黒^ク
 顔^レ色^レ赤^ク日^レ本人^レ之^レ産^レハ^レ皆^レ心^レヲ^レ安^ク其^レ姓^レ名^レヲ
 問^レハ^レハ^レヒ^レ口^レウ^レケ^レア^レドリ^レヤ^レン^レト^レ答^クウ^レ共
 名^レ奇^クト^レ角^レモ^レ或^レハ^レ洋^レ人^レト^レ日^レ本人^レノ^レ間^レニ^レ在^レレ^レ
 其^レ名^レヲ^レナ^レラ^レン^レカ^レ又^レナ^レフ^レ余^レマン^レハイ^レハ^レニ^レ在^レレ^レ医
 学^レヲ^レ學^レフ^レ卒業^レ後^レハ^レ女^レ子^レ日^レ本^レニ^レ歸^レリ^レ子^レ等^レ同
 地^レニ^レ来^レリ^レハ^レハ^レハ^レハ^レ訪^レフ^レヘ^レト^レ又^レ立^レテ^レ諸^レ君^レノ^レ健
 康^レニ^レ力^レヲ^レ盡^レス^レラン^レヲ^レ希^レ望^レシ^レ強^クク^レ夢^レ江^レニ^レ耽^ラ
 甘^クラ^レシ^レヲ^レ望^レム^レト^レノ^レ語^レヲ^レ殘^レク^レ去^レル^レ川^レ村^レ守^レ云
 フ^レ余^レ今^レ道^レニ^レ行^クニ^レ去^レ會^レシ^レ御^レ主^レリ^レ余^レ三^レ日^レ日^レ本人
 十^レ三^レト^レ同^レフ^レニ^レ由^レリ^レ然^レリ^レト^レ答^クヘ^レカ^レ稱^レモ^レ日^レ本
 人^レト^レ云^ク也^レ猶^レ他^レノ^レ同^レ邦^レ人^レニ^レモ^レ稱^レセ^レト^レ欲^スム
 由^レテ^レト^レ之^レ導^レキ^レキ^レト^レ斯^レ波^レ氏^レ歸^ルル^レ乃^レチ
 氏^レ又^レヒ^レ跡^レ一^レ身^レニ^レ散^レ矣^レ又^レウ^レオ^レル^レフ^レス^レブル^レン
 子^レン^レニ^レ至^リテ^レ午^レ食^レニ^レ山^レ路^レヲ^レ歴^クテ^レ千^レ一^レゲ^レル^レハ^レウ^レセ
 ン^レニ^レ至^ルル^レ此地^レヲ^レカ^レル^レ河^レ畔^レニ^レ在^リテ^レ風^レ景^レ頗
 ル^レ佳^ク之^レニ^レ小^レ息^レシ^レ星^レヲ^レ一^レノ^レ巾^レヲ^レ儼^レヒ^レ三
 人^レ交^レル^レカ^レカ^レ櫓^レ下^レン^レノ^レイ^レ・^レブリ^レニ^レ至^リ
 上^レ陸^レニ^レ徒^レ歩^クス^レ斯^レ波^レ氏^レ某^レノ^レ家^レニ^レ宿^ルル^レ此^レ時^レフ^レヲ
 イ^レカ^レル^レ也^レ留^レ学^レノ^レ飯^レ盛^レ某^レ幸^レ本^レ某^レ寓^レ下^レ某^レノ^レ三^レ氏^レ等

銀座 伊東屋製

Good

別
行

東んく共二「ハ」心ん三イン
 二登り少酌所
 蘇子揚スく社二のり古塚ノ^{此点}大ヲ見ント
 波柵平前白田^村河^村穂積正田佐藤孫一ノ九氏
 及ヒフヲイハルヒヨリ来り三氏等ト古塚ニ
 赴クく門前ニ至レハ人山ヲ爲シ衆弟ニ入ルサ
 得スく路ニフヲイハルヒノ三氏^通帯ヲ持セサ
 レハ入ヲ許サレズ^常ん^他ノ語^以皆^人ん^く
 独り余ト穂積氏ト^解葉ノ^簡之^扶マレ^道通^自由^由
 下ラス^穂積^氏云^ク帰^ルニ^共カ^スト^余ニ^亦
 帰^ラレトスレ^民是^ク能^ハス^漸ニ^一方^ノ血^路
 下^実キ^二人^ノ心^ニ入^ルヲ^得タ^リノ^語氏^皆立^テ
 余^等ヲ^待ツ^ク力^ノ共^ニ城^壁ノ^下ニ^至ル^元日
 リ大^厦屋^ノ下^ニレハ^各家^ノ燈^火杪^照ル^恰モ^白
 晝ノ如ク又^音聲^ノ響^クヲ^亦ク^側ニ^一個^急ア^リ
 予^人ノ^飲食^ニ備^フ就^テ飲^シト^スレ^比群^集坐^坐
 予^巨ム^能ハ^ス一^圍城^ヲ出^テ各^別ニ^テ寓^ニ
 帰^ルト^比此^比常^思一^為ニ^組成^シ近^在ノ^夜常^夜
 ト^フク^ハ此^比常^思一^為ニ^組成^シ近^在ノ^夜常^夜
 ヲ着^ニ別^テ正^ク行^クモ^ノ二^皆古^代ノ^人ニ^摸

銀座 伊東屋製

別行

集ノ申之在テ諸氏ニ命レ独リ川村氏ト余ト共
 之立テ見ん 此ノ 北点 火ハ前日見ニ如ク也
 之概ス 成ノ西面ニ火ヲ 北点 之及射鏡ヲ以テ之
 ヲ照ス 遠見スレハ院モ坂城火ノ如ク短ン美
 第 凡ソ十分ニ消フ 即チ直ニ霧ニ帰ル
 此日防一氏ト明旦此地ヲ窺セント約シ是クビ
 ンゲン迄 亦時霧ノ汽車ヲ以テワ舟ヲ以テテ
 イノ河ヲ横キリリ 一デスハイムニ至リソレ
 日ノ山ヲ登キテ ゲルマニキレ 記念碑ヲ見ン
 トス 此夜霧ニ帰リ霧モセンケル氏ニハカ
 氏ヲ可 然レハ ビンゲンヨリリ 一デスハ
 イノ迄 少舟ヲ以テ横キルノ事アリ 寧ク
 当地ノ時 列車ヲ以テ一マインツニ至リ
 コニ下車 向岸ノカステルニ至リコノヨリ
 東田右岸ノ汽車ヲ以テリ 一デスハイムニ至
 リ記念碑ヲ見ん 後直ニ河ヲヨリ 厚船ヲ以テ
 飛スル 便ナルニ若カスト 余大ニ其説ニ服
 之 明旦停車場ニ赴キ子孫一氏ニ其意ヲ告ケン
 ト 館ニ其祖ハ直ニ禱ニ就ル
 八日午前 一時停車場ニ至ル 余謂テク 防一氏

銀座 伊東屋製

二至んノ切符ヲ焼クノ車突スノ九分七令
 ンゲルガリノクニ達スノ下車ニ舟ヲ以
 テリ²⁶ノアスハイムニ至ラントスノ舟人ニ
 貴客ニ¹ダ¹ワ¹ドニ登ラント欲セハリ³¹
 アスハイムニ渡ハ不可²其下流ニ位ス^ルアシ
 マンスハウセンニ渡リ之日²ノ齒輪汽車ヲ以テ
 山上ニ登リ又齒輪汽車ヲ以テ²⁶ノアスハイ
 ムニ下リ便船ヲ待タハ同一ノ路ヲ復ス^ルヲ
 要ス^ル可²其¹至¹者ノ説¹ナ¹ヲ以テ孫一
 氏ニ許^ル氏モ亦然リト云フ^ル乃チ舟人ヲ以
 テ斜ニアシマンスハウセンニ渡^ル舟人ニ
 川中ノ小島ヲ見^ル一ノ古塔アリ鼠塔ト名^スト
 孫一氏云フ子鼠塔ノ由縁ヲ未^ク聞^クアサンカ
 當^ルノ¹紀¹元¹九¹百¹十¹四¹年¹ノ¹次¹ノ¹大¹帝¹ノ¹行¹ニ
 當^ルリ^ルノ¹僧¹正¹ハ¹ト¹十¹九¹百¹九¹十¹年¹ノ¹火
 災¹ヲ¹救¹フ¹ル¹ノ¹由¹ト¹集¹ノ¹念¹願¹ニ¹入¹ラ¹レ¹ト¹火
 ヲ¹放¹テ¹之¹ヲ¹燬¹殺¹ス^ル及¹チ¹テ¹此¹貧¹民¹何¹ノ¹為¹ス
 下¹テ¹テ¹徒¹ラ¹ズ^ルニ¹穀¹ニ¹生¹活¹ス^ルト¹ハ¹人¹穀¹ヲ¹盜
 食¹ス^ルノ¹如¹シ^ル今¹其¹根¹ヲ¹絶¹テ¹ト¹然¹レ¹ト¹神
 之¹ヲ¹思¹フ¹ス^ル盡¹ク¹放¹テ¹僧¹正¹ヲ¹甚¹マ¹シ^ルト¹

銀座 伊東屋製

剛ヲ逃走スレハ群嵐至ん途ニ隨フ止ヲ得ス
 末因以中ノ一鳥ニ未ク古塔ノ上ニ登ん群嵐
 之ニ集リ終ニ之ヲ殺セリト是元ヨリ無根ノ
 怪説也ハニ過キカレ也宗教家ノ説ヲ設けん東
 西其美ヲ見かんヲ感レタレハ能ク之ヲ記セ
 リト談話ノ中ニ舟下ニ左側断岸ノ上ニ一城壁
 ヲ見ん即チライニス又イレ也之ニ對スん
 地ヲアシマニスハウセントス乃チ二人陸ニ
 上ん舟人録ヲ食ん其ニ余念リニ懐ハカ
 レ比前約ヲ為サハリシカホニ如何セ不可ラス
 是ヨリ南極流車ヲ以テニ一ノワルドニ登ル
 一旅人アリ余ト相對シ坐ス余一見其猶太
 教ノ人タニヲ知レハ新ヲ指ケテ其ノ語ヲ挑ハ
 ン勿ラレドントス何トナレハ猶太教ノ人ハ
 歐洲人ノ中ニ最モ嫌忌セラル者ニ其卑劣
 ナルヲ言説ニ能スん也ノ十レハ其終ニ説
 ヲ帯ク余ニ法人カト問フ余答テ曰ク余ハ日
 本人ト解肉ヲ何処ニ理スルカ幾年猶太ニ
 居んカ又何ノ為ニ猶太ニ事ハシカト問テ止マ
 ス余答テ曰ク余ハ猶太ニ事ハシマシマシ
 余猶太ニ事ハシマシマシ

銀座 伊東屋製

有ノ一年ニシテ法律ヲ究ムニ為ニ今ハオンニ居
 ルニシテ又ハイザル心ニヒノ學問ヲ見レヤク
 フニシテ又ニ願忘ニ堪ヘスト~~出~~ニ止リ得ス出
 ト答フ其州改メ尚フ下又甚夕願フニ堪ヘタリ
 終ニ至リ其本色ヲ顯ハシ一命ヲ乞フニ坐テ君ノ
 如ク我ニテ能クスル者ナシト諛言ヲ榮ス~~余~~
 憤ニ堪ヘス方フ~~汝~~人ニ媚ツル~~其~~ニ忍ビテ
 談話中ニ篇及ノ失誤ヲ看出ス下ヲ得然ルニ獨
 我ニテ能クスルト方フカ~~然~~又云人一國ノ誤
 フ事ニ一年ニシテ能ク自ラ失誤ヲ看出スヲ得ル
 ハ實ニ少ナシト~~余~~益々名譽ニ堪ヘス~~不~~
 然又日本語ハ我ニシテニ及ハサラント方ニ至リ
 猶也語ノ徒ラニ子音及ク~~電~~聲ナルト日本
 語ノ東洋語ナルニ似ズ~~修~~艱ノ語ナル下ヲ示
 彼ヲ習カサニカト思ヒシカ~~彼~~元ヨリ一ノ聲
 人ニ過中ス之ニ對シ~~筆~~フマ馬耳東ノ解スル下
 七十リ實ニ甚モ筆誤ニ從變スル者ノ快トモサ
 ル所~~也~~ト思ヒ叱冷笑~~何~~人モ他國ノ短所ニハ
 目ノ原カ又者~~也~~ト云ケレハ是ヨリ~~然~~又~~又~~
 下ノ句ラス~~山~~上ノ一旗亭ニ遠ス~~之~~ニカ息~~也~~

銀座 伊東屋製

別件

日レ此地在留ノ石坂他田ノ二氏樓下ヲ過ク
 弥一氏大呼之ヲ指シ二人オリ来ん少時
 之ニ氏等ノ第ニ至ん先ヨ尋田良平氏ニ面
 入録ノ二氏ハ既ニ知ん所也直ニ後園ニ出
 テ詣ス第ノ老婦ニ男一女来テ礼ス蓋レ氏
 家ハ山井学校教授永井氏ノ新婦ノ実家ニ共
 縁而ヲ以テ三氏之ニ常スル也此系ホテルニ
 澤ノ三氏等ト共ニ琴酒ヲ飲ケ各ニ壺ヲ倒ス
 更ニ葡萄酒ヲ命ス弥一氏精リ之暇ニ壺ハ入
 又樽ニ入ル余ニ氏ト共ニ第ヲ出テ河邊ニ出
 テ放歌吟詩又月ニ茶ス又一ノ酒樓ニ入り飲
 ムテ初杯之ヲ出テ又他ノ酒樓ニ上ル桑田氏
 ノ学友フリンク十人若毛ワリ余ニ姓ヲ
 通シ共ニ飲ンテ食テ共ニ飲テ三時ニ至リ
 第ニ帰ル尋田他田ニ氏ハ帰り石坂氏ハ第ニ
 ノ第ニ泊ス
 九月十日第ヲ出ツ余少シク宿醉ヲ感ス弥
 一氏ハ猶一日之ニ止ラント欲ス余ハ十二時
 十五分祭ノ別事ヲ以テ内所ヲ茶ス田氏并ニ
 フリニテ穿送り来ル一時之十外ボソに着シ

銀座 伊東屋製

んやせり~~は~~是~~は~~此~~は~~懐~~は~~了~~は~~二~~は~~洋~~は~~凡~~は~~二~~は~~擬
~~は~~唱~~は~~采~~は~~ヲ~~は~~博~~は~~セ~~は~~ト~~は~~欲~~は~~ス~~は~~ル~~は~~ハ~~は~~怡~~は~~ニ~~は~~界~~は~~第~~は~~十~~は~~ニ~~は~~詩~~は~~歌
 歌~~は~~人~~は~~カ~~は~~名~~は~~家~~は~~ノ~~は~~向~~は~~ヲ~~は~~監~~は~~テ~~は~~社~~は~~會~~は~~ノ~~は~~稱~~は~~讚~~は~~ヲ~~は~~得~~は~~ト~~は~~ト~~は~~ス
 人~~は~~カ~~は~~如~~は~~ク~~は~~其~~は~~及~~は~~ハ~~は~~甘~~は~~ン~~は~~所~~は~~ア~~は~~ル~~は~~ハ~~は~~止~~は~~ヲ~~は~~得~~は~~甘~~は~~ン
 洋~~は~~凡~~は~~ヲ~~は~~擬~~は~~ハ~~は~~西~~は~~岸~~は~~之~~は~~及~~は~~ハ~~は~~甘~~は~~ン~~は~~ハ~~は~~百~~は~~金~~は~~ノ~~は~~理~~は~~ニ~~は~~月
 三~~は~~誇~~は~~ル~~は~~ハ~~は~~オ~~は~~ノ~~は~~辨~~は~~ア~~は~~リ~~は~~右~~は~~ヲ~~は~~之~~は~~ヲ~~は~~捨~~は~~テ~~は~~欲~~は~~ス~~は~~ニ~~は~~母~~は~~水~~は~~日
 本~~は~~人~~は~~善~~は~~畫~~は~~ノ~~は~~性~~は~~質~~は~~ニ~~は~~嘆~~は~~ス~~は~~ハ~~は~~オ~~は~~ノ~~は~~至~~は~~ニ~~は~~且~~は~~ク~~は~~一
 ノ~~は~~輪~~は~~出~~は~~自~~は~~ヲ~~は~~索~~は~~見~~は~~ス~~は~~レ~~は~~人~~は~~道~~は~~ニ~~は~~租~~は~~製~~は~~之~~は~~流~~は~~レ~~は~~之~~は~~力~~は~~為
 二~~は~~陀~~は~~甲~~は~~ヲ~~は~~失~~は~~テ~~は~~忽~~は~~テ~~は~~胎~~は~~賣~~は~~ノ~~は~~路~~は~~ヲ~~は~~塞~~は~~テ~~は~~此~~は~~時~~は~~ニ~~は~~至
 リ~~は~~脐~~は~~ヲ~~は~~噬~~は~~也~~は~~及~~は~~ハ~~は~~ス~~は~~此~~は~~美~~は~~所~~は~~有~~は~~テ~~は~~之~~は~~ヲ~~は~~甲~~は~~ヲ~~は~~ル

ノ~~は~~道~~は~~ヲ~~は~~知~~は~~テ~~は~~ス~~は~~呼~~は~~何~~は~~ノ~~は~~稱~~は~~高~~は~~人~~は~~工~~は~~業~~は~~者~~は~~ノ~~は~~爲~~は~~テ~~は~~ル~~は~~ヤ
 一~~は~~亦~~は~~ハ~~は~~我~~は~~古~~は~~美~~は~~術~~は~~ノ~~は~~名~~は~~声~~は~~ア~~は~~ル~~は~~ヲ~~は~~喜~~は~~ビ~~は~~一~~は~~私~~は~~ハ~~は~~近~~は~~來
 我~~は~~美~~は~~術~~は~~ノ~~は~~衰~~は~~頹~~は~~セ~~は~~テ~~は~~嘆~~は~~ス~~は~~之~~は~~ヲ~~は~~恢~~は~~復~~は~~ス~~は~~ル~~は~~今~~は~~何
 二~~は~~在~~は~~リ~~は~~吾~~は~~人~~は~~何~~は~~ノ~~は~~年~~は~~ヲ~~は~~束~~は~~テ~~は~~安~~は~~ス~~は~~ル~~は~~ノ~~は~~ヤ~~は~~ナ~~は~~リ
 二~~は~~ヤ~~は~~又~~は~~一~~は~~ノ~~は~~際~~は~~ス~~は~~可~~は~~ク~~は~~ア~~は~~リ~~は~~今~~は~~日~~は~~ノ~~は~~ハ~~は~~イ~~は~~テ~~は~~ル
 ハ~~は~~ン~~は~~ヒ~~は~~大~~は~~学~~は~~ノ~~は~~榮~~は~~華~~は~~ニ~~は~~當~~は~~リ~~は~~各~~は~~國~~は~~ノ~~は~~諸~~は~~博~~は~~士~~は~~ニ~~は~~名~~は~~譽
 博~~は~~士~~は~~ノ~~は~~稱~~は~~ヲ~~は~~贈~~は~~レ~~は~~リ~~は~~之~~は~~ニ~~は~~際~~は~~ハ~~は~~特~~は~~ニ~~は~~皇~~は~~太子~~は~~ハ
 所~~は~~ノ~~は~~國~~は~~公~~は~~共~~は~~ニ~~は~~名~~は~~譽~~は~~博~~は~~士~~は~~ノ~~は~~稱~~は~~ヲ~~は~~受~~は~~テ~~は~~ル~~は~~是~~は~~レ~~は~~是~~は~~レ~~は~~書
 嘗~~は~~テ~~は~~伊~~は~~帝~~は~~命~~は~~命~~は~~ニ~~は~~世~~は~~宗~~は~~位~~は~~ヲ~~は~~得~~は~~ト~~は~~該~~は~~撒~~は~~ノ~~は~~傳~~は~~ヲ
 記~~は~~シ~~は~~書~~は~~稿~~は~~ノ~~は~~稱~~は~~甲~~は~~ヲ~~は~~乞~~は~~ハ~~は~~レ~~は~~之~~は~~カ~~は~~稱~~は~~ニ~~は~~甚~~は~~テ~~は~~學~~は~~士

銀座 伊東屋製

采ハ木?

~~弗勒德力~~

□□明治十九年八月下旬おん府寄沙ニ於テ
 蕨山学人誌
 弗勒德力^{フリドリック}維廉^{ウィルヘルム}四世ノ少誌
 弗勒德力^{フリドリック}維廉^{ウィルヘルム}四世ノ少誌
 ハ前代ノ生ハ所今市ハ美人ノ名アリル
 也^カ后ノ生子^カ然レモ王ノ継母ヲ慕ル
 生母ノ如クアリトソ一日ルイセル後詣至
 子ヲ集メ各ノ其好^カノ花ヲ^カハシメタルニ
 五ハ也ニ^カ継母^カ草^カニ^カト答^カル
 何ハ心ニ在ノ習ヒト^カ継母ハ継子ヲ愛セ又
 継子ハ継母ニ親マシテ^カ遠ク人邪トモ
 隔意ノアルモ^カ一^カ天^カ性^カ冷^カ冽^カニ^カ少^カシ
 七^カ継母ヲ過スルカ如ク振舞トテ人常ニ感スル
 所ナルカ今ノ一言ハ大ニ心アリテ一言ナル可
 シトテ^カ猶愛ヲ加ヘラレシトソ
 廿日^カの^カ植^カメ
 九月十六日^カ午前郵便配夫一函ノ書管ヲ投レ表
 ル^カ蓋ニ在英國三浦波言忠ヨリ贈ルニモナリ

銀座 伊東屋製

氏嘗て英國之止ん半年之~~獨~~魯ヲ巡回し今再
 已宣命ヲ奉じ馬匹備求ノ為之內地ニ至りし
 氏ノ書中ニ云フ~~子~~人且下休暇中ニ~~無~~解ニ
 嗜ムヤん心~~シ~~ 寧~~下~~口ニニ週ヲ倫敦ニ書クヤ~~余~~
 卜常ヲ曰フニ朝夕ニ胸内ニ蟻マル万般ノ~~ヲ~~
 概談~~ノ~~概論スルヲ得ルハ又懐テ~~ス~~ヤ~~余~~
 千倫敦ニアリテ市井ノ状況ハ既ニ知レリ又幸
 ニ暇アリ~~子~~ニ~~素~~ハ自ラ東遊スラント~~獨~~
 日~~リ~~英ニ至ん遊~~ル~~中ニ昨~~ス~~ト~~雖~~毛鉄路新般ノ
 便アリ一晝視能ク産スヘシ~~子~~夫レ奮テ~~素~~レト
~~余~~心忽チ動ク~~昔~~テ~~ポ~~口~~フ~~ニ~~三~~ソル~~、~~ライ
 ハ倫敦ニ開設ノ英國植民地博覽會ヲ實見セ
 トメ行クニ先チ~~余~~ニ同行ヲ勸ム~~且~~ツ~~日~~夕~~子~~
 其ニ東レ蓋云ん所~~野~~少~~テ~~ス~~ト~~ 必~~レ~~也~~余~~
 年既ニ孫~~回~~ノ~~旅~~リ~~ヲ~~ナシ~~ム~~ル~~ヲ~~次~~テ~~先~~ツ~~之~~ヲ~~
 辭シタリ~~今~~此~~藤~~氏ノ書ヲ得~~心~~ニ思~~フ~~ク~~家~~
 二在~~テ~~一~~夏~~ヲ~~為~~キ~~ニ~~徒~~ラ~~ニ~~日~~月~~ヲ~~費~~ス~~ニ~~可~~ク
 倫敦ニ至~~リ~~意~~氣~~相~~投~~スルノ友人ト~~既~~夕~~相~~談~~ス~~
 一ニハライ~~ン~~氏ト~~共~~ニ博覽會ニ行~~テ~~其~~設~~明~~ヲ~~
 詢~~カ~~ハ~~又~~善~~益~~ニ~~閑~~月~~ヲ~~送~~ル~~ニ~~便~~レ~~リ~~ト~~心~~

銀座 伊東屋製

歌謡
60本

荷國小港

旅社下り

忽々決る 在伯林ノ婦小路分藤ニ一書ヲ
 贈リ旅行費ヲ倫敦ニ送ラシテ其ノ
 要資金額ハ同氏ニ書ニ托シタレト
 日 可次ノ書セニトス 先ツライソノ留守宅ニ
 至リ其婦ニ面シ氏カ倫敦ノ知所ヲ問ヒ帰路ハ
 ストルトノマヌ区カ家ニ至リ亞州路一池田秀
 雄ノ二人ニ別リ去リ トノマヌ氏ノ長男ハ
 スモ月曜日ヲ期シ倫敦ニ飛セニトス 右ニ一
 日ヲ延シ其ニ行ケト勸メテ止マヌ 余元ヨリ
 独行ノ無聊ナルヲ一人ノ内行アルハ大ニ
 如ク所ナレ 余今回ノ趣ニ元ト突外孫波氏ヲ驚
 カスニ在リハ兩三日ヲ延ハス 一修ハスニ之ヲ修
 倫敦ニ再會セシヨリ約ス 余ノ常宿ハ蓋ニ
 一週或ハ十日ノ間ニ在リ 其ノ路停車場ニ行
 キ乗車ノ都合杯取調ハ盒ヲ一倫敦ニ至ン本
 行ノ切符ヲ購フ 蓋ニ路ヲフリシニゲンニ
 兩ノ路上海ヲ踰ルニ一ノ切符ヲ以テ足ル
 其便利思ヘシ
 十七日午十二時盒ヲ棄ス 四ヶ分胡倫ニ至
 下車ヲフリシニゲン行ノ列車ヲ待
 ン

銀座 伊東屋製

ムル、勿レ是レ英貨之非スト
 波氏之令ヲ得之録リヘシ
 出ンヤ独貨ヲ以テ他ヨリ倫敦ニ至ル
 切符ヲ購ヒ前日車中船中共ニ独貨ヲ以テ飲食
 ニ供スルヲ得ルハ倫敦ニ着テ又獨之ヲ英貨
 ニ交換スルヲ心付カス此ノ如キ次第ヲ起セ
 リ是取テ取トスルハ中程ノ一ニモ非ナレハ人
 ニ話シ笑柄トセリ又次テ歐洲旅行ノ容易ナリ
 一端ヲ窺フヘシ 藤澤氏云フ子ハ及家ニ止ル
 ヲ得人ニト故ニ余更密所ヲ命ズルヲ要セス
 後藤氏ト強民地博覧會ヲ見ント約ニ其ニ當
 可出クカウア、ストリトニ至リ同街停車場
 ヲリ地下鉄道を以テ博覧會ニ行ク地下鉄道ト
 ハ市街ノ下ニ鉄道線路アリヲ倫敦市中之理ハ
 所ニ往復スルヲ得人ニ蓋ニ南豊ノ盛トシ技極
 者ノ多ク一合一軌ヲ争フアレハ此鉄道馬車
 兼合馬車ノ如キモノニテハ其速ヲ一増ク又故
 ニ此地下鉄道アリテ三合或ハ三合毎ニ往來ス
 其速トシ一端ヲ見ルヘシ 一停車場ニ達ス
 之ニ下車シ又地下ノ道ヲ行ク一三所博覧會

後藤氏ト強民地博覧會ヲ見ント約ニ其ニ當
 可出クカウア、ストリトニ至リ同街停車場
 ヲリ地下鉄道を以テ博覧會ニ行ク地下鉄道ト
 ハ市街ノ下ニ鉄道線路アリヲ倫敦市中之理ハ
 所ニ往復スルヲ得人ニ蓋ニ南豊ノ盛トシ技極
 者ノ多ク一合一軌ヲ争フアレハ此鉄道馬車
 兼合馬車ノ如キモノニテハ其速ヲ一増ク又故
 ニ此地下鉄道アリテ三合或ハ三合毎ニ往來ス
 其速トシ一端ヲ見ルヘシ 一停車場ニ達ス
 之ニ下車シ又地下ノ道ヲ行ク一三所博覧會

銀座 伊東屋製

一、前二出ツ、又同會完設中、同會ノ入場切符ハ
 各停車場ニテモ得ヘキ、丁十レハ地下鉄道ヲ以
 テ、東ノ者ハ同會内前ニテ之ヲ購フ、同會十レ万
 変換便ヲ古トス、其注意同前、警ラヘシ、場ニ入
 ン、波、飲、内、二、日、ノ、没、セ、サ、ン、英、國、ノ、丁、十、レ、ハ、同、會
 ノ、盛、大、十、レ、ハ、云、フ、迄、モ、十、レ、レ、比、印、度、派、斯、太、利
 加、拿、他、ヨ、リ、小、ニ、ハ、香、港、マ、ン、タ、ウ、ヘ、ン、ゴ、ウ
 ン、ド、ノ、如、キ、ニ、至、ン、迄、植、民、地、ノ、殖、民、地、ヲ、網、羅
 一、減、サ、ス、比、會、ノ、方、ニ、又、英、島、人、民、ヲ、一、層、植、民、地
 莫、業、ノ、女、中、感、ス、ン、ニ、至、ン、其、利、益、ハ、實、ニ、莫、大
 十、レ、ハ、一、レ、此、日、上、暗、白、ニ、下、等、取、手、ノ、有、場、内、ニ
 滿、テ、能、ク、看、ン、一、能、ハ、不、蓋、シ、此、日、入、場、料、ノ、廉、十
 レ、ハ、十、レ、三、ヲ、出、テ、西、御、海、軍、大、臣、ノ、推、進、ヲ、訪
 一、大、臣、勲、功、前、ニ、此、地、ニ、着、ス、八、田、海、軍、少、佐、
 吉、井、幸、彦、^{海軍士官}、^{大臣隨行}、其他、姓、必、ク、面、白、甘、ん、者、二、人
 皆、坐、ニ、テ、談、話、時、ヲ、移、メ、研、究、家、ニ、帰、リ、絶、望、ス
 三、井、御、海、軍、大、臣、中、介、渡、辺、某、某、訪、ス、ク、同、人
 及、七、存、附、女、ト、新、場、^{ア、ン、ハ、カ、ヲ、}ニ、至、ン、同
 場、人、純、粹、ノ、新、場、ニ、ハ、非、ス、各、種、ノ、技、藝、ヲ、演、ス、ン
 一、場、十、レ、新、場、結、了、^{如、ク、連、演、演、題、ヲ、異、ニ}

銀座 伊東屋製

605

別行

スルヲナク日教ヲ限テ同支ヲ演スルヲ我國ノ
 演劇ノ如クバレトハ伊豆ノ女優ノ
 演スル如ク終ニ各人種ヲ出スハ英國各
 種ノ植民地土人土俗ヲ示スモノナリ此後ニ各
 種ノ技藝アリテ終焉英國文藝ノ士幸々釋出ス
 皆音樂ニツレテ出ワシテ舞臺ノ士幸々女子ニ
 入軍其後ニハ入乱ルテ舞臺トナシ此技大ニ人
 ノ嗜ぬニ由ニ昨今冬ニテ連夜演人ノ之ニ能カ
 ス武人側ニ在テ白ク敵兵ノ如ク艶麗ナレ
 ハ余ハ新我ニ民懐ニスト衆ガ之ニ笑ス場内皆

田舎中何處其某ニ會ス道ニ馬車ヲ就テ歸ん
 十九日此日夕晴白ナリ以テ初ノ見ンヘキナ
 夕刻ニ毎時ナリ独り地方ノ夕晴日ハ同クナリ
 閑テ至カスト飯日甲帯長員ノ如クハ燻利ニシ
 へキモ此地ノモノハ煙草形ノ外人更ニ用カス
 娘ハ寂寥ナリ午後藤山ノ三氏ト馬車
 ナリトハイド・パーナニ赴ク即チ有名ノ公園ナ
 リ樹木多クササシモ青草ハ種ノ如ク池ニ
 リ又ハ草叢ニヘシ之ヲ周テカハハ一ラニト
 ケトトヤキテ赤ノ帰ん此日午(ヤ)レレク口

銀座 伊東屋製

四隅ニ各種ノ人ノ
石像アリ以テ
英国ノ属地ニ此ノ

別記

又ニアム水師提督子ルソノ立像ヲ見ル其下
ニ四箇ノ獅子アリ歟ハ名作ナリト云今午社
党ノ暴挙ヲ為スヤ皆之ニ集リ相結テ市街ノ豪
商ノ家ヲ襲ヒ狼藉セリナリシカ之ヲ以テ英
國ノ下等社黨ノ主計ノ甚キヲ想像スヘシ今之ヲ
道中ヲ猶英國將東施政ノ難ヲ感セリ又公園内
ニ公塔アルハト記且ノ像ヲ見ル像ハ堂宇ノ
中ニアリテ歟ハ偉大ナリト記如ク異類ノ人
種アリナリ示ス又英皇子女王及ヒ其人民記念ノ
塔ニ建ツト記セリ喚響後山氏ト記ス

廿日午 前藤保民ト記ス氏歟クニ魯國ノ再訪ヲ
談々甚佳境ニ入ル時ニ訪フ人アリ細川
護成ナリ猶ハ余ノ地ニアムニ驚キ別後ノ程
甚ク驚ン馬車ハ淡路長途ノ長之杉浦重等東
洋余ノコトニ在ルニ驚ク午後藤保民云フ今日
水窟窟ヲ訪ハシハ如何余曰ク可也ト車ヲ乘
ヒクトキ中 停留所ニ至リニ時半ノ別去リ以テ
内所ニ向フ一時余ニ産不内産人博覧會場ナ
クニ建築シ初メハ市中ニアリシカハ會終テ後
有志者爲ニ一社ヲ結ビ之ヲ保存セシ爲メ市中

銀座 伊東屋製

白鳥

二つ引て今日ノ跡ニ移セリト云フ其ニ大建築
 二鉄柱ヲ以テテ四角上即張ンニ玻璃ヲ以
 テ又遠見スレハ氷山ノ如ク其ノ氷割實ノ名ニ
 取テサン者ト云フヘシ庭園モ亦美ナリ止フ只
 地位ノ高燥ナルカ爲ニ一層其盤脚ヲ増ス場内
 ハ唯一ノ御工場ニ過ラズ其盤脚茶亭等モ備レ
 リ之ヲ以テ停車場外ノ割烹店ニ晚餐ス一人
 ヲ二三ノ山臺ト一婦人トヲ携テ来リ二人ニ
 向テ一神レ其答ハ日本ノ即方ト思ヒ之故ニ
 一禮セリ唯モハ取方ト呼フ者ト後ニテ
 休ハ輕投ヲ業トシ洋婦ヲ整リ之者ト云フセ
 時ハ所々業シトヒクトリヤレ停車場ニ着テ馬
 車ヲ以テ日車打ニ望ム是ハ昨午洋化則洋人由
 中ナル者日車打者ノ如ク下等社会ノ者ノ状
 ヲ洋人ニ示シ巨利ヲ博セニトノ意ヲ以テ若國
 ヲ經テ此地ニ来リ大陸ヲモ一回リ再ニ此地
 ニ此行スル者場内穿席アリ手笛ヲ共行ス此
 ノ如クハ御思ハシ次ニ遊藝ノ少女三名出シ
 舞ヲソレテハ巧ナク一婦ヲ横テハ遊藝
 春雨ノ曲ヲ歌フ我々實ニ地ニ入ラズト也

銀座 伊東屋製

別行

某氏ニ呼セラレテ旅ヲセサルヲ得ス由暗或人
 日曜ニ帰ルヘシ若シ帰ラハ子ト共ニ村覺會ニ
 赴クニ子其時迄止ンヤ否ヤ(余曰止ルヘシト是
 ニ於テ再會ヲ期シ令レ馬車ヲ欲フテ第ニ帰ル
 藤氏ニ亦程ナク帰ル時二十一時
 廿一日午後新山氏トシテ至ル最モ備
 敷中執事ノ地(高)高衣會社銀行ノ敷地ニ往來
 頗ル繁ニ極ム大倉組支店ヲ訪フ日本銀行支店
 金銀行等一棟ノ家ニアリ大倉組手代稲垣某ノ
 請導ニ知リ一ノ南社ヲ見ル南社ハ一箇人ノ資
 本ニ出テ社員アリテ社中ノ者ハ他ニ比テ廉價
 ニ購フヲ得ヘシ(高)高島ハ社トシテ社員十ニ家ニ
 廣大ノモノナリ其南社ヲ取扱フ者數百人也
 ルカ如シ氏南社備敷ニ有名ナルモノニ非ズ唯
 大倉組ト兩引アルカ爲ニ氏ノ請ヒニ之ニ以テ
 其盛大ノ一(高)高規フヘシ之ヲ出テ稲垣ニ合レ
 新山氏ト有名ナル備敷橋ヲ見ル即千四一ノ
 河ニ架スル者ナリ橋上ノ踏踏能ク高ク注クニ
 非ズレハ人車ノ爲ニ倒サレントス是ヨリ車ヲ
 撤クテ帰ル此夜ヨリ常ノ主婦ト共ニ心及

銀座 伊東屋製

ハカシヒルと銘
あり、施方の
手書き
見極く

別冊

七二娘曉發ヲ共ニスニ娘共ニ音楽専内校ニ
 于儀等ノ賞牌ヲ得タル者ニ會後ニ娘交々カ
 彈シ又歌ヲ採詠氏勸レテ去ク近衛ハ独ニ在
 テ音楽ヲ學ヘリトニ娘連リニ余ニ一連ヲ奏セ
 且ト勸ム余百方共勸言テんヲ出レ地味ノ断
 クニ夕辞スんヲ得たり十一時復ニ就ク
 廿二日朝ライン氏ノ書ヲ得たり氏次日曜日ヲ
 以テ倫敦ニ帰ラン故ニ月曜午前ニ氏ノ舞ニ來
 レハ共ニ博覧會ニ赴カント又同氏著述ノ日本
 ニ寄スん書板行ナリニラ次テ共一印分ヲ贈ニ

余ニ校合セニのヲ囁セらん據據云フ今日何処
 ニ行カンヤ今更り佐々木宮美宮行氏息ヲ訪セ
 同人ニ誘導セズメント共ニ出テ同氏ヲ訪フ氏
 云ス余ハ前約ナリ日行ス可ラスト次ニ中田某
 試神本館者ヲ訪フ氏云フ今更り前田和郎ヲ訪ヒ四人
 リツケ已ニドニ行イ如何ト之ニ決シ前田氏ヲ
 訪フ氏云前約ナリ日行ス可ラスト乃チ三人之
 ヲ出テ一ノツケノグハム序幕場日リ後リツ
 十モンドニ至ル時ニ三時半一ノ割意店ニ登ル
 此望好んニシ氏地蓋シテ一ノハス河ノ上流ニア

銀座 伊東屋製

又廣留アリテ唐ノ赴ク者ハ是日ノ帰路ナ
 カハデシニ赴ク高嶺アリ支那ヲ摸セシモノ
 ト建國願ハ廣大ニ各種ノ樹木アリ即チ一
 ノ植和園ニ~~植~~室アリ各地ノ本草ヲ集ム余等
 物ノ下ヲ知ラス殊ニ妙ヲ覺ヘサリ之ヲ之
 路ヲ以テテ~~中~~レクハス停車場アリ下車ニ近
 傍ニ晚餐ニ又相携ヘテアクワリウハヲ見
 蓋シアクワリウハハ水族館ニ人作ル各種
 ノ藝ヲ演ズル所~~途~~ニ~~會~~會議堂ヲ見ル此
 坊田敷中ナシテ以テ樓上ニ火ヲ見ル夜子ニ
 能ク之ヲ知ル能ハスト~~異~~色頗ル壯大ナシカ如
 シアクワリウハニ當スルモノハ~~心~~レト
 アリ水泳アリ其他二三ノ技アリ細波ヲ濤ス
 ル婦人アリ最も巧ニ自轉車ニ乗リ細波ニ
 人ヲ身栗ヲ生セシハ日本人輕技ヲ演ズ然ル
 鳴采ヲ博セリ又人魚アリ水中ニ游泳スト告
 ルモノアリ中田氏云フ之ヲ見ルカ余~~回~~クニ
 ト之ヲ見ル半間ニ大サアソント思フ硝子画ニ
 水ヲ盛リ水草小魚ノ類ヲ中ニ滿クシメ年輪ニ
 九針リノ少女腰ヲ下ハ魚ニ墨ヲス水巾ニ

銀座 伊東屋製

~~棋~~
誤

別

行

河東公使旅行中之之之也中田氏アリ盤
 子出ル~~子~~氏云一試ニカ余之ニ應ス
 運就運勝余意氣揚々盤面ヲ掃ヘテ淨ン此日終
 日田叔笑談人外ナレ伯林婦山路氏早リ余ノ旅
 費ヲ贈ン後又音書ヲ寄ク十一時復ニ就ク
 廿四日新山氏ト勸余ス帰リ来レト東窓アリ津
 田静一~~一~~其二印紙洋ノ暑カリシテ杯相談リテ
 一笑ス午後山田氏ト棋ヲ圍ハハニス、ト
 一マス弟訪ス氏昨日当地ニ来レリト相渡クテ
 散宗ニ二三ノ酒床ヲ訪フハニス云ク英國番付

別

行

芝~~爾~~ト~~一~~笑フ是レ或人擬物ニ~~水~~中ニ在ル如
 クニ見エズハル者ナラン是レ又香具師ノ歎言
 家ノ女子能クテ利ヲ博セトスル者ナラン中
 田氏モ之ヲ然ルトス一人アケル人魚ニ似テ田
 英流ヲ解スルト人奥有宿ス之ヲ以テ其舊物
 々んヲ知ルニ是ニ笑フ一キノ至リテリ中田氏
 場内ニ田知~~二~~逢フ相携クテ去ン余又新山氏ト
 相夫ス
 廿三日午前中田氏来ル余公使館ノ棋盤ヲ借リ
 ント乞フ氏諾ス中食後直ニ公使館ニ赴ク次日

銀座 伊東屋製

殊^{ヒサ}南^ク

別

行

ルハオナニ終日家ニ在テライン氏日リ依頼ノ
 廿六日雨外出ニ便テラス殊ニ日曜ニ一ノ見
 異テラス帰路散步
 子詩テテアクワリウムニ至ル進段ハ前日ニ
 ワリウムヲ知ラスト痛恨氏ト余ト共ニ同氏
 釐クニ堪マリ燈臺後山に依テ余未タアク
 才思集のモリ又書籍能アリ其書類ノ夥多ナルハ
 物館共ニ大同由異アルノミ昔ト又書史上ノ物
 者ハト口イ城ノ柱ナリ其他彫刻ノ如クハ各傳
 二也⁶ 妙⁴ 餘⁸ 未² 他² 見^サリ^ニ

別

行

甚ク^難飲^ク可^ラスニ人漸ク一ノ酒^亦独^ニ夢^酒
 常ニ帰^ル視^テ又^規ヲ^用ム
 廿五日新山氏ト散步ニ一ノ勸^揮師^ニ至^リ新^衣
 ヲ命^ス帰^リ来^レハ藤^村氏^云フ^事急^クテ^今已^ニ
 二去^レリ^即チ^山内^某^解^豊^範氏^ノ石^田英^吉
 福^富孝^季^五子^ト福^富氏^ハ余^カ知^ルニ
 新紙上氏ノ書跡アルヲハ知リニカ氏ノ既ニ
 倫敦ニアリシヲハ知ラサリニ蓋^シ露^毛ニ
 前ニ着セシナリト午後新山氏ト下^リテ^レニ
 餘^ニ見^サリ^ニ 餘^ノ未^タ他^ニ見^サリ^ニ

銀座 伊東屋製

8 頭 杖
 友人名ヲドク
 トル。ト
 云フ。

校合ヲ為シ又田根笑談他ニ一更ナシ流聖書道
 同長之前田利氏ノ云氏早リ余ト孫傳氏次水曜
 日ヲ期メ割置座ルルルニニ聘セトノ招
 状ヲ贈ル
 廿七日午前三イニ氏ヲ訪フ氏云フ共ニ博覽會
 ニ赴カント共ニ赴ク氏云フ精案ニ子ニ教テ
 ントスレハ教員ノ日子ヲ要ス今日其大要ヲ告
 ケン又印度部ヲ総括スルハ余ノ友人也氏云フ
 誘導セシメ印度部ノ説明ヲ為サシメ又云フ
 今日ハ子ノ尊名ヲ顯ハサシメ如何ト云フ
 子始ケス然レモ是何ノ為ナク氏曰ク子始ケテ往
 至新ル所共露名ヲ顯サシメ不便ノ多カク
 ン然レ長今日ノ如ク之ヲ示セハ會場職員ノ接
 遇モ郵電ニシテ精案ニ之ヲ見レテ得ン人貴
 賤ノ為ニ接遇ヲ異ニスルノ高下ニ相サレ
 何人ニテモ貴キヲ敬スルハ自出ノ勢ナレハ
 ト余ヲ唯志生ノ意ニ任スト既ニ場内ニ入
 座那利砂地氏地ヲ示レコトヲ示レ
 今十タルノ茶加那等名之ヲ説明シ地氏地ノ
 其地味肥瘦ノ了ノ如中人其地地方ニ

銀座 伊東屋製

加非之ニ適シ
某地方ニハ

ハ綿ナリ茶葉ニ穀ト其精細ナリ之ヲ記
スル違フラス其記力驚クヘシ場内ホシ
学人ヲ兼理教授ナリトシ
セニ以テ會々ク三人共ニ印度部ニ入り其職
官誌所ニ至ルヲイハレ余ヲ其職官ニ紹介シ云
フ公署近衛第壹ト側ヲ一人アリ新ナリ出シ
余ニ礼ス蓋シ伊太利國フロレニス村大業教授
フロフニソルヒケリオリ氏印交部掛
トクトル某ハ永ク印度ニ在リ其語ニ通シ印交
地方一切ノ事ハ其處ニ結レキ人氏余ト引イ

ン、
ヲ引テ其音和製製造品等ヲ明示レ且ツ
ヲ見ル簡ハ其印中新人ノ往來ヲ止メレト
諸精ニク見ルヲ得タリ一急下リ印度分ニ建築
セリ其材木ノ用度甚多ノ体誠和電ノ中ニ妙
リ其外ニ印度土人ノ各職業ヲ皆ス所ナリ
緻細彫刻等最モ巧ナシヲ覺テ依其土人ニ印度
ノ唱歌ヲ命ス皆新ク大ニ感服ノ如ク覺テ
イニ以テ余ノ長女エルト猶止テ田舎ニ下リ
三時之ニ帰ラントス今既ニ時至ル停車候クニ赴

銀座 伊東屋製

十之ヲ携ヘサレ可ラス子ハ訪氏上御場内ヲ見
 テ方時余ノ寓ニ来リ且時余ヲ星ニトナシ
 相分ル余訪氏上御場内ニ止ルトイトル某云ク
 時正ニ三時午餐ヲ望セシト某云レト余
 等之ヲ謝メ食堂ニ入ル此建築ハ二百年前前ノ
 倫敦市街ノ家屋ニ擬セテ有ト大ニ古雅ヲ愛
 フ午餐終テ某氏云ク印布印ハ大塞此ノ如シト
 余等之ヲ謝シ出ク余獨濠洲地ヲ加拿他ノ邦ヲ
 見サレ且飲ニ座テテ是ヘタレト二時トナリ
 センヒナリオリノ二氏ト相合レ場ヲ出ク之座
 踏氏ニ場内ニ相合セント約レドムニ終ニ會ハ
 不余道ニヨイノ氏ニ行カレカト思ヒ日レ比時
 未早ニ其近停テレハ洗町氏ヲ訪ク氏在ラス
 時ニ雨フルヲ甚ニ如何共スル能ハヌ近ニヨイ
 二氏ニ行ク氏校舎ノ書簿側ヲニアリテ之ヲ驗
 ス是ニ於テ氏トエルト余ト三名共校舎ヲ為
 ス一時中漸クニ終ル終テ時余ヲ謝シ談話時
 才後ニ辭メ帰ル余ヲオムラス一車ニ乗テ
 帰り道ニ之ヲ下ル余地理ニ精ナラス思フク
 寓所ニ帰ルノ道ト標アリ之ヲ見ルベシトド

銀座 伊東屋製

某の...
 叶非...
 二...

1. ...
 2. ...
 3. ...
 4. ...
 5. ...
 6. ...
 7. ...
 8. ...
 9. ...
 10. ...

別件

フトドノレト書ス是れ我位所也ト隔
 有り第ニノ家ニ至リ懐白リ鍵ヲ出ル戸ヲ開カ
 ントス鍵之ニアハス余計ニ其レ思フ是レ
 鍵ヲ誤リレ錠ヲ引テ人ヲ呼ブ下婢出テ戸ヲ
 開ク其語ヲ見レハ常所ノ下婢ニ耶云云言ハ
 結句ヲ何レヨリ東ムト余大ニ答ニ甚ク毛ク問
 テ曰ク常所ハ常ニヤルヤ答テ曰ク此家ニ其
 名ノ人ナレ余止テ得ス之ヲ出テ番号ヲ見レ
 ハ其番号余ノ常ノ世ハ番号然レ比隣ヨリ才
 之家ナレハ能ク之ヲ知ル余其誤リヲ解ク能
 ハス須臾ニ謝テ解ス常所ハアホトハト
 ドノヲレトスニ是ハ唯ハトドノトド
 レトスナルヲ然レモ常所ノ構造能ク相似タ
 ヲ以テ其誤ヲ解ク能ハサリ也道ヲ問テ漸ク
 常ニ帰リ之ヲ話ス常所ノ租忽テ笑フ
 廿八日常所氏ニ氏ヲ隨テ市外ニ出テ終日帰
 ス蓋シ購再ノ為也午最ニイシ氏其女工ニテ
 携ヘテ来リテ今日倫敦塔ヲ見ント欲ス同行
 セルヤ余之ヲ諾ス共ニ行テ出テ氏云テ子ハ七
 ント相ノ寺院ヲ見ルヤ余曰ク未ダ也

銀座 伊東屋製

工

云々上ルヲモ未タ之ヲ知ラス其ニ行ヲ見ラレ
 二余ハ書肆ニ行キ少時ニテ寺後ニ相會セント
 相令レ余工ルヲト寺後ニ至ン如ク世大ナレモ
 胡倫ノ寺後ニ比スレハ其半ニ過キス諸王勇將
 名僧等ノ像アリ下ニ十傳ヲ付ス休ワトルハ
 一ノ新ニ章篇一セヲ破リ之ウ工ルン將
 ノ棺アリ蓋ニ埋葬セス寺後ニ置レセカ之
 ヲ見テ寺後ヲ去ク氏未タ来ラス工ルンヲテ庭
 園ヲ索セント庭園ニ去テ待ツ漸クニ来ル
 ナケ三人之ヲ出テ馬車ヲ馳テ備敷塔ニ至ン此

地テノハス河郡ニ在テ其地宮ニト長也
 向ニアルハ凡皇ノ書クヘキナニ鐵寶アリ五
 ノ大禮ニ采スル具ヲ陳列ス女王ノ冠ナリ前王
 ノ笏ト皆純金ニ金剛石ルルノ如キ金石
 ヲ陳列ハハ深標ト目眩セルトス欽冊ヲ以テ之
 ヲ陳列シ張ルニ欽經ヲ以テ之其外ニ異稱ノ服
 ヲ着セシセノ之ヲ護シ蓋ノ外ニ人番兵アリ
 一ノ氏云ス要心尽セリト云ヘシ次ニ執器陳列
 日本ノ武蓋アリ日本ノ命人儀ニ推岳ノ甲冑アリ

銀座 伊東屋製

ルノ之ノ刀劔を亦少シク見之又囚獄アリテ一人
 ノ之ニ居ん也ノ十ニ唯租造十ノノ外西之斬
 首場アリ側ヲニ書札アリスコトヲトシド女王
 マリヤ、又チ(三)アノ十比ニ斬セラルト記ス以
 于當時ノ一ヲ追懐スレハ工リサハス女王ノ賢
 十ニモ字教ノ異ナルト如クトハ昔ニハ終ニ此
 ノ如ク殊般ナリレカト長大魁セシメ之ヲ斬テ
 ライン氏及ヒエルヲト分袂ニ其ニ馬車ヲ馳テ
 オニカ、ハニリース、ロトトナル福(富)氏ヲ語テ
 互ニ別後ノ安全ヲ祝ヒ談話スルヲ少時同宿ノ
 山内石田ノ二氏千秋信臣氏(文)及ヒ佐々木重
 美氏也亦至ん談相撲ニ渡ル福富氏得意ニ新カ
 士ノ評ヲ下シ綾浪八幡山等ノ昇進ヲ喜ビ常山
 ノ俸格愈々格相主ノ熟練ヲ説ク皆育ヲ飲ケテ
 之ヲす(三)時ニ三時(余)辞々帰ル(諸)氏皆
 アラス大ニ寂寥ヲ覚テ會及宿ノ二娘(余)ニ向テ
 子トトヲフト(余)ヲ能スルル(余)ト然リト之
 ヲ試ケルニ連發連敗終ニ一回の勝ヲ制スル能
 ハスニ娘大ニ笑ス乃チ辞(余)ノ宿ニ入ル(孫)持
 氏等歸リ来リ酒ヲ命ニ笑談ニ時ニ及フ

銀座 伊東屋製

原大
期七セシヨリ

別行

十日一日午
 終日家ニ在リ
 日フ友人ト
 結ント欲ス
 ハ其家ヲ訪
 書ヲ贈リ日
 十リ此間ヲ
 馬ニ突セシ
 氏トドムリ
 日土曜日ニ
 三ハ若ニ機
 ルセノアリ
 へタリ之ヲ
 戸取ル氏ヲ
 ンセノアリ
 三ハ若ニ機
 日土曜日ニ
 氏トドムリ
 馬ニ突セシ
 向ヲ覺ヘタ
 十日一日午
 終日家ニ在
 日フ友人ト
 結ント欲ス
 ハ其家ヲ訪
 書ヲ贈リ日
 十リ此間ヲ
 馬ニ突セシ
 氏トドムリ
 日土曜日ニ
 三ハ若ニ機
 ルセノアリ
 へタリ之ヲ
 戸取ル氏ヲ
 ンセノアリ
 三ハ若ニ機
 日土曜日ニ
 氏トドムリ
 馬ニ突セシ

地類ト猴類
 朱ス其洲レ
 物ヲ其洲レ
 へタリ之ヲ
 戸取ル氏ヲ
 ンセノアリ
 三ハ若ニ機
 日土曜日ニ
 氏トドムリ
 馬ニ突セシ
 向ヲ覺ヘタ
 十日一日午
 終日家ニ在
 日フ友人ト
 結ント欲ス
 ハ其家ヲ訪
 書ヲ贈リ日
 十リ此間ヲ
 馬ニ突セシ
 氏トドムリ
 日土曜日ニ
 三ハ若ニ機
 ルセノアリ
 へタリ之ヲ
 戸取ル氏ヲ
 ンセノアリ
 三ハ若ニ機
 日土曜日ニ
 氏トドムリ
 馬ニ突セシ

銀座 伊東屋製

6. 頭 76

千八百五十年備
 敦二万回博覧
 會ヲ開ク以テ至
 其ノ時ハ英
 國諸王ニ冠
 是ニ於テ各國大
 二會場ニ至リ上
 皇後ヲ起シテ之
 ヲ奨励セリ
 同大七年也

トス余ハ昨日ヲ以テ終セントスルノ意ヲ告
 告ケルヲ以テ余之ヲ諾ス午後前由氏来リ
 言フ今夕新湯行ハリ子ニ約セリ余之ヲ探
 二二看相皆前約アリ得ん能ハスト余云フ止
 ヲ得ん子ニ暇アリ今更ニ他ニ尋ナレ
 日氏云フケンシケントシハウセウムハ有
 名ノ博覧會也之ヲ見ル如何余云フ日氏孫氏
 也其ニ行カント欲ス即中家ヲ出テ日氏ニ至
 門内黒様ノ建築アリ蓋シニウジ一ランド土

別行
 二月午前ト一マズ末氏ハ種永ク是ニ出マ
 二足ルハト以テ再會ヲ約ス
 候ニ那久ト以テ土着名証諸君ヲ懇シク
 三二ト余云フ十一月一人東國地方ノ勝ヲ探
 望シ訪員有テ行クニ十有二人おシニ至
 是ニ巡回ノ暇アリハ東國地方ヲ訪レニ
 實ニ際限アル可ラス余一タヒ諸君ト分袂シ諸
 事ト其愉快ヲ通知ニ制スルヲオセサレハ
 氏種一週止マシテ初ハ余止ラシテ
 余日頃白ノ夜ヲ期々地ヲ索セント欲スト諸

銀座 伊東屋製

6
お。

博覧會ニハ諸君ノ
ノ工業遂ニ美ク
有ニルニ至レリ
又英ハ五十年前
能ク各國ノ工業
ヲ雄視スルニ至
リシモ其雅緻ニ
至シテ其ノ更ニ
甚ク辨學校ヲ起
シ其改良ニ從
テモ其リヤケン
セントシ博物館
ノ如キモ此等ノ
設立ニカレリ

人ノ作也ト云ハルルハ此銀ハ汎ク物ヲ蒐集シタ
ルモノ、如レ日本支那ノ部陶器銅器漆器織物
漆器金銀器象牙彫刻刀劍甲冑宝二盛ト云
フヘシク多クハ巴里万国博覧會ノ中ニ日支ノ
出品ヲ購ヒシト云々又大久保利通氏ノ寄贈
ト記セン者モ少ナカラス其他各國ノ物備ハ
サル下レ然レ此番史上ノ品ハ甚ク少シ比外ニ
理者上ノ物品ヲ集メシモノアリト云ハト少シ
ク採育ヲ免ヘタレハ之ヲ見スル者ハ會中最大
倉惣稲垣氏兼ニ氏ヲ倉堂ニ迎テ同會ニ終テ拜

稲垣ノ博士ニ誤謬ス稲垣氏婦リ之昨日一日曠
如何ニ消セン何カ愉快ナシト云カト云フ
稲垣氏云ク日米料理ヲ調セシカレ共ニ
今宵買ハスルハ明日各戶皆閉テ得ント云カ
ン今更ニ行テ買ハント稲垣新山ニ氏ハ出テ去
ル須臾ニ帰ル稲垣氏云ク今夕ハ此家ノ酒セ
ト飲ハスト山ノ氏云ク今夜セント稲垣氏又云フ
明日ノ割置ハ何カ宅ニ於テセン然レ又畫ヲハリ
テモンドニ行テ井ヲ深ヘテ海ヲ下トヤハ如何
ト云思フク甚ク愉快ナラント云カ云ク余ノ如

三日月の晴るる遷延せり上皆驚て其故を問ふ余
 申す此愉快なりて何ぞ一日を延ハサ、ん
 を得んと衆之り然りと入氏に相酌す二時之及
 三日午前西向氏来り余之別り告げ去ん乃ち厚
 波山口新山嶽垣ノ四氏トテカレク羅斯ニ
 至り同所より船ヲ次テ一ハス河ヲ溯ラント
 不之ヲ由フニ己ニ夏季ヲ過リ夕レハハ所ニ往
 船ノ船ナレト止ヲ得スオハニカガテリチモ
 蓋レ共ニ話スんテヲ欲スルカガテリチモ
 ンドニ至り一割運店ニ年會レ水迎ニ行テ小舟
 二隻ヲ僦テ藤稻ニ氏一舟ニアリ余山口新山ノ
 之代ト地舟ニ乘り皆舟人ヲ僦ハス倉ヲ櫓セ
 レトノ心ナリ藤稻氏ノ舟見ん々々急流ノ宿ニ
 流レ去ん余等之ヲ笑フ次ニ物舟ヲ中流ニ押出
 スニ山新之氏ハ櫓者ナリ余ハ舟端ニ坐り舵者
 ナリ中流ニ至ルハ舟忽チ下ニ如何共ニ
 ン能ハス漸クニ止ル乃チ舟ヲ反シ上流ニ溯
 ラント不龍者ト各船中ノナレハ
 右岸ニ突ちり左岸ニ衝突ニ類レ困難ヲ極ム西

別行

銀座 伊東屋製

岸人群ヲ爲メ其拙ヲ笑フ三人流汗淋漓漸ク舟
 ヲ轉レ上ル上流より一隻ノ小舟飛ヒ下ル余之
 ヲサケント欲メ復視メ其船ヲ誤ル忽チ兩舟衝突
 突メ所舟凡ント覆ラントス他舟ノ人全ク水ヲ
 荒ル怒テ余ヲ睥睨ス余僅ニ踏ヲ得三人力ヲ合
 セテ少シク上ル忽チ暗洲アリテ舟之ニ乗ル進
 退自由ナラス一人アリ小舟ニ乗リ馳付所細ヲ
 以テ兩舟ヲ結付(王)等其奥系ニ繫ク以テ一人ニ
 了斷シ暗洲より舟ヲ下口ニ極急流ヲ上ラント
 又橋より橋下流レ蓋ス急ヤリ一人二舟ヲ楫
 水流ヲ溯ル甚ク難シ流亦力疲(余)等極其爲メ
 所ニ任ス細細ヲ解イテ已レノ舟ヲ橋梁ニ結ビ
 (余)等ノ舟ニ移リテ橋ノ上流ニ
 至リ左岸ニ舟ヲ寄セテ陸ニ上ル新山氏傳ニ録
 子(子)子之ヲ(子)又申流ニ乗出シ(余)山氏ト相
 代テ橋ニ此河流平カナレ(其)舟節カス(余)山氏
 氏一脆スルヲ笑フ氏大ニ怒ル(其)々止マズ新山
 氏云フ今日ノ舟遊ハ奇ト云ヘシ(其)孫福ニ氏ハ
 躊躇ヲ知ラス山氏ハ怒リ所解思ハ困スト山
 口氏モ爲ニ難ク和ケテ笑フ(余)云フ今日
 徐々

銀座 伊東屋製

二下下橋側日リ上港セニカニ氏去日レト遂ニ
 上港ニ孫縮ノニ氏来ラス三人犬ニ心ヲ痒ム忽
 ニ上流ヨリ急事揚々ト下ル一復ノ舟アリ
 是ニ氏ノ舟ナリ余筆其技ノ上達ニ驚ク漸ク江
 ケ八十舟三人アリ櫓スル音ハ二人ニ非ク中定
 一人ヲ就テテコカシメレバ其速ニ驚カセト
 一笑ス即チ余ノ停車場ニ至リ五時乗車ノ踏踏
 ニ予備教ニ帰ル市中之産スルヤ地下鉄道ニ大
 ルカウアー・ストリートニ至リ山形ニ氏ハ下
 事ノ蓋シ米肉ヲ買ヘテ後ニ稲氏ノ家ニ至テニ
 爲也次ノ停車場ニ着クヤ三人下車シ余スル下
 三四寺稻垣氏實ニ柱ニ突カテ卒倒ニ起シ此人
 不意孫縮氏ト相抱テ起ルニ其結合ニ入テ
 暫ク伏サシム側ヲ二人アリ水ヲ欲セズルナ
 三八樽ノ一末ヲンカト孫氏稻垣氏ノ耳ニ付テ之
 ヲ内ニ吐首肯スルノ一語ナシ其人水ヲ取リ
 ト出テ去リ須臾ニ帰リ来リテ今日ハ日
 昨ニ井水ヲ汲ハシト余等其人ノ怒命
 ヲ謝ス稲氏漸ク款ヲ上ケ云ク別事ヲ出テ、後
 更テ已知ラスト余等其懇求ヲ諾ス氏モ亦自

銀座 伊東屋製

別行

別行

一 陳賓ノ主婦ニ女等ニ別テ先テ七時半歸リ
 一 命銀ヲ贈ラニテ約ス氏大ニ喜テ歸ル
 押ニ至テ人余讀ハス之ヲ辭シ極天保庫金
 裏ニ記セシテ一拜カント欲スト余之ヲ教テ花
 出メ示シ去リ此等都ニ於テ贈クニモ一氏教
 子日ク後モ亦英國ニ信スト懐ヨリ大判水刺ヲ
 乙人トト比士年自リ倫敦ニ在リ故ニ日事ヲ云
 京都ニ在リ齋藤院ノ教師ナリ之者ナリ余ハ永ク
 乙書等ノ行履ニセシテ一先イ氏去リ余ハ永ク
 四日午前十ニカ一氏來訪ス余前日ノ遺言ヲ謝
 号ヲ誤リ書状ヲ携ヘ帰ル
 氏ヲ訪フノ約ナリ己カ氏行ノ為ニ行ク能ハシ
 一先ト一書ヲ贈ル由レ氏使セ之者共書
 運部ノ劇シカリシノ一因ニ際スルナリ
 之ヲ辭ス此禮堂ニ某海軍ニ而ス氏日ニカ一
 不可ラズ是久シク日本食ヲ食セサリシト此日
 肉ヲ携ヘ來ル割差ナリ之ヲ食ク其味實ニ名状
 馬車ヲ以テ同氏ノ家ニ至ル指ク山形ニ氏米
 瓦斯ノ為ニ正象ヲ失ヒニテラニ相携ヘテ去テ
 一警々蓋シ地下釜氣ノ流産惡クキカ為ニ蒸酸

銀座 伊東屋製

年ニ至テ衰ヘタルカ如キモ富ハ益々増スト云
 へリ其一所ハ各殖民地ノ收入ハ亦クニ及ハス
 合衆國ノ如キ其國內ノ支費皆米人ノ手ニ付ル
 ト云モ其為米人等英人ノ劣不所ナリト故ニ買
 易表ニ米國人大收入ナルカ如クモ其實過事ハ
 英人ノ手ニ落ル故ニ米國ノ政治上独立モ
 凡モ高貴上ハ英ノ屬地ト云テ可ナルカ如ク唯
 二米國ノミナラス佛獨ノ如キモ皆支ノ如キ英
 國ニ莫儔ナク國ト貿易スルニ又其利益ノ幾分
 ハ英國ノ巨ナル所トナルト云何トナレハ東洋

一要地ニ香港新嘉坡亞典ノ如キ彈丸地子ノ
 地ト云モ其富權ヲ振ニ便ナルハ實ニ大ナリ
 地中海ノ咽喉ナルシヲナルモ亞非利加ノ南
 端嘉望峯等其手ニ付リ他國船之ニ碇泊スル
 毎ニ得ニ幾分ノ利ヲ得タルト云フ此ノ如ク
 二ノ富ハ益々増ルニ米人ト云モ其欲ニテ實者ヲ
 見レハ日ニ一回ノ食サヘ得ル能ハス倫敦ノ
 ストエントニ住スル貧民ノ有様ニ至テハ云ニ
 為ヒヤル者アリト云フ製造所如ク多クモ職工
 ノ多クニ甚レカカ如ク其製造所ノ如キハ職工

銀座 伊東屋製

